

三光村の遺跡

三光村文化財調査報告書(第3集)

— 三光地区遺跡群発掘調査事業 —

2001.3

大分県

三光村教育委員会

発刊によせて

大分県教育委員会が策定しました第5次大分県総合教育計画によりますと、現在、県下に約4,000箇所の埋蔵文化財包蔵地が知られていて、これらの遺跡について本格的に埋蔵文化財の保護と開発事業の調整を図ってきていますが、本村におきましても、道路交通網の整備事業や農業基盤整備事業、そして大型店舗進出に伴う埋蔵文化財の計画的な調査とその保護に努めてきました。

特に今回は、平成8年から平成12年まで国、県の補助を受けて調査が行われました村内14箇所の発掘調査と、村内に点在する埋蔵文化財のほか、石造物等を含めた総合的な文化財の調査をまとめて報告書として発刊することになりました。

先人の残した文化は、現代社会においても貴重なものであり、また大切な財産でもあります。それ故に、文化財の保存・保護・活用について、行政の果たす役割は大変重要であります。

そこで、村教育委員会としましては、

1. 村内の遺跡の分布調査と試掘調査を行い、その保存・活用に努める。
2. 村内の文化財を掘り起こし、それを記録することで、貴重な文化財の崩壊や消滅を防ぐ。

以上2つの事業を推進してきました。

この度、大分県教育庁文化課のご指導とご協力をいただいて、念願の本村の「文化財台帳」を作成することができました。

今後は、この「文化財台帳」を社会教育や学校教育の場へ積極的な提供を図り、文化財に対する理解を深めていく必要がありますと同時に、文化財を守る会等関係団体との連携を深めながら、その保存・保護・活用、さらに全村民への文化財愛護思想の普及徹底を図ることに努めていかなければなりません。

終わりに、この調査にあたってご指導いただいた大分県教育委員会、また、ご協力いただいた村文化財調査委員の方々に深く感謝の意を表して、「三光村の遺跡」(第3集)の発刊のことばといたします。

三光村教育委員会

教育長 西 義 一 郎

例 言

1. 本書は平成8年から平成12年までに調査が行われた土田若林地区・瑞雲遺跡・臼木上ノ原遺跡・佐知柿木遺跡・下深水小路遺跡・原口遺跡群・諫山糸永遺跡・大源寺横穴墓群・佐知久保畑遺跡・深秣地区・成恒地区・真坂地区・臼木古墳3号墳・佐知遺跡群の発掘調査報告及び、三光村内に所在する文化財の詳細調査報告書である。
2. 本調査は、大分県教育庁文化課指導のもと平田由美（三光村教育委員会）が行った。
3. 遺構実測はおもに平田が行い、村上久和（大分県教育庁文化課）氏、長谷川正美氏の協力を得た。
また、遺物実測はおもに平田が行い、一部阿部みゆき氏の協力を得た。またトールスは担当者のほか、財津香奈子氏の協力を得た。
4. 出土遺物の整理は三光村教育委員会で行った。
5. 遺構写真はおもに調査担当者が撮り、長谷川正美氏の協力を得た。また遺物写真は長谷川氏の協力を得た。
6. 本書の執筆は平田が行い、一部文化財調査委員の協力を得た。
7. 本書の編集は平田が行った。

本文目次

第1章 はじめに

- | | |
|----------|---|
| 1. 調査の経過 | 1 |
| 2. 位置と環境 | 1 |

第2章 調査の内容

- | | |
|-------------|----|
| 1. 土田若林地区 | 3 |
| 2. 瑞雲遺跡 | 3 |
| 3. 臼木上ノ原遺跡 | 5 |
| 4. 佐知柿木遺跡 | 12 |
| 5. 下深水小路遺跡 | 14 |
| 6. 原口遺跡群 | 14 |
| 7. 諫山糸永遺跡 | 16 |
| 8. 大源寺横穴墓群 | 16 |
| 9. 佐知久保畑遺跡 | 19 |
| 10. 深秣地区 | 21 |
| 11. 成恒地区 | 21 |
| 12. 真坂地区 | 21 |
| 13. 臼木古墳3号墳 | 23 |
| 14. 佐知遺跡群 | 23 |
| 15. 文化財台帳 | 23 |

挿 図 目 次

第 1 図	三光村内遺跡分布図	2
第 2 図	土田若林地区トレンチ位置図	3
第 3 図	瑞雲遺跡位置図	3
第 4 図	瑞雲遺跡平面図	4
第 5 図	瑞雲遺跡土器実測図	5
第 6 図	臼木上ノ原遺跡トレンチ位置図	5
第 7 図	臼木上ノ原遺跡遺構配置図	6
第 8 図	臼木上ノ原遺跡第 1 号墓平・断面図	6
第 9 図	臼木上ノ原遺跡第 2 号墓平・断面図	7
第 10 図	臼木上ノ原遺跡第 3 号墓平・断面図	7
第 11 図	臼木上ノ原遺跡第 4 号墓平・断面図	8
第 12 図	臼木上ノ原遺跡第 5 号墓平・断面図	8
第 13 図	臼木上ノ原遺跡第 6 号墓平・断面図	9
第 14 図	臼木上ノ原遺跡第 7 号墓平面図	9
第 15 図	臼木上ノ原遺跡第 8 号墓平・断面図	10
第 16 図	臼木上ノ原遺跡第 9 号墓平・断面図	10
第 17 図	臼木上ノ原遺跡第 10 号墓平・断面図	11
第 18 図	臼木上ノ原遺跡第 11 号平面図	11
第 19 図	臼木上ノ原遺跡落とし穴状遺構平・断面図	11
第 20 図	臼木上ノ原遺跡 1 号溝・5 号土坑平面図	11
第 21 図	臼木上ノ原遺跡 1 号溝出土遺物実測図	12
第 22 図	佐知柿木遺跡トレンチ位置図	12
第 23 図	佐知柿木遺跡出土遺物実測図	13
第 24 図	下深水小路遺跡トレンチ位置図	13
第 25 図	下深水小路遺跡出土遺物実測図	14
第 26 図	原口遺跡群トレンチ位置図	14
第 27 図	諫山糸永遺跡トレンチ位置図	15
第 28 図	諫山糸永遺跡第 1 号墓平・断面図	15
第 29 図	諫山糸永遺跡遺構配置図	15
第 30 図	諫山糸永遺跡出土遺物実測図	16
第 31 図	大源寺横穴墓群位置図	16
第 32 図	大源寺横穴墓群出土遺物実測図	16
第 33 図	大源寺横穴墓群遺構配置図	17
第 34 図	大源寺横穴墓群第 1 号墓平・断面図	17
第 35 図	大源寺横穴墓群第 2 号墓平・断面図	17
第 36 図	大源寺横穴墓群第 3 号墓平・断面図	18
第 37 図	大源寺横穴墓群第 4 号墓平・断面図	18

第 38 図	大源寺横穴墓群第 5 号墓平・断面図	19
第 39 図	大源寺横穴墓群第 6 号墓平・断面図	19
第 40 図	大源寺横穴墓群第 7 号墓平・断面図	19
第 41 図	大源寺横穴墓群第 8 号墓平・断面図	19
第 42 図	佐知久保畑遺跡トレンチ位置図	20
第 43 図	佐知久保畑遺跡出土遺物実測図	20
第 44 図	深秣地区トレンチ位置図	21
第 45 図	成恒地区トレンチ位置図	21
第 46 図	真坂地区トレンチ位置図	21
第 47 図	臼木古墳 3 号墳平・断面図	22
第 48 図	佐知遺跡群トレンチ位置図	23

表 目 次

第 1 表	三光村内遺跡一覧 (1)	24
第 2 表	” (2)	25
第 3 表	三光村内文化財一覧 (1)	26
第 4 表	” (2)	27
第 5 表	” (3)	28
第 6 表	” (4)	29
第 7 表	” (5)	30
第 8 表	” (6)	31
第 9 表	” (7)	32
第 10 表	” (8)	33
第 11 表	” (9)	34

図 版 目 次

図版 1	(上) 土田若林地区調査前	35
	(中) 土田若林地区トレンチ調査風景	
	(下) 臼木上ノ原遺跡遺構検出状況	
図版 2	(上) 臼木上ノ原遺跡調査風景	36
	(中) 臼木上ノ原遺跡遺構検出状況	
	(下) 臼木上ノ原遺跡第 1 号墓	
図版 3	(上) 臼木上ノ原遺跡落とし穴状遺構	37
	(中) 佐知柿木遺跡調査風景	
	(下) 佐知柿木遺跡トレンチ調査状況	

図版 4	(上) 佐知柿木遺跡トレンチ調査状況	38
	(中) 下深水小路遺跡調査風景	
	(下) 下深水小路遺跡調査状況	
図版 5	(上) 下深水小路遺跡石垣検出状況	39
	(中) 原口遺跡群トレンチ調査状況	
	(下) 原口遺跡群トレンチ調査状況	
図版 6	(上) 諫山糸永遺跡トレンチ検出状況	40
	(中) 諫山糸永遺跡トレンチ調査状況	
	(下) 諫山糸永遺跡遺構調査状況	
図版 7	(上) 諫山糸永遺跡第 1 号墓	41
	(中) 大源寺横穴墓群全景	
	(下) 大源寺横穴墓群検出状況	
図版 8	(上) 佐知久保畑遺跡調査前風景	42
	(中) 佐知久保畑遺跡遺構検出状況	
	(下) 深秣地区トレンチ調査状況	
図版 9	(上) 成恒地区トレンチ調査状況	43
	(中) 真坂地区トレンチ調査状況	
	(下) 佐知遺跡群トレンチ調査状況	
図版10	(上) 瑞雲遺跡	44
	(下) 瑞雲遺跡	
図版11	(上) 瑞雲遺跡	45
	(下) 瑞雲遺跡	
図版12	(上) 臼木古墳 3 号墳	46
	(下) 臼木古墳 3 号墳	
図版13	瑞雲遺跡・臼木上ノ原遺跡・佐知柿木遺跡遺物写真	47
図版14	佐知柿木遺跡・下深水小路遺跡・諫山糸永遺跡遺物写真	48
図版15	諫山糸永遺跡・大源寺横穴墓群・佐知久保畑遺跡遺物写真	49
図版16	(上) 厚ヶ瀬トンネル	50
	(下) 泰源寺橋	
図版17	(上) 八十八ヶ所石仏群	51

第1章 はじめに

1. 調査の経過

三光村では、平成8年から国庫・県費の補助を受けて村内の文化財について調査を行ってきた。その数は5年間で14ヶ所におよぶ。また調査に平行して村内の文化財についても分布詳細調査を行い、1万分の1の地図にその所在地を記し、村内での今後の開発に対応できるよう、台帳の整備、分布図の作成を行った。

調査の関係者は以下のとおりである。

調査主体者：三光村教育委員会

調査責任者：花崎 貞雄（三光村教育長 平成5年4月～平成11年2月）

西 義一郎（ ” 平成11年3月～）

調査指導員：賀川 光夫（別府大学名誉教授）

調査員：平田 由美（三光村教育委員会）

三光村文化財調査員：相良久馬・松田一臣・金色充仁・松久公・酒井登（～平成11年10月）

竹下節（平成12年2月～）・松山均（～平成12年4月）

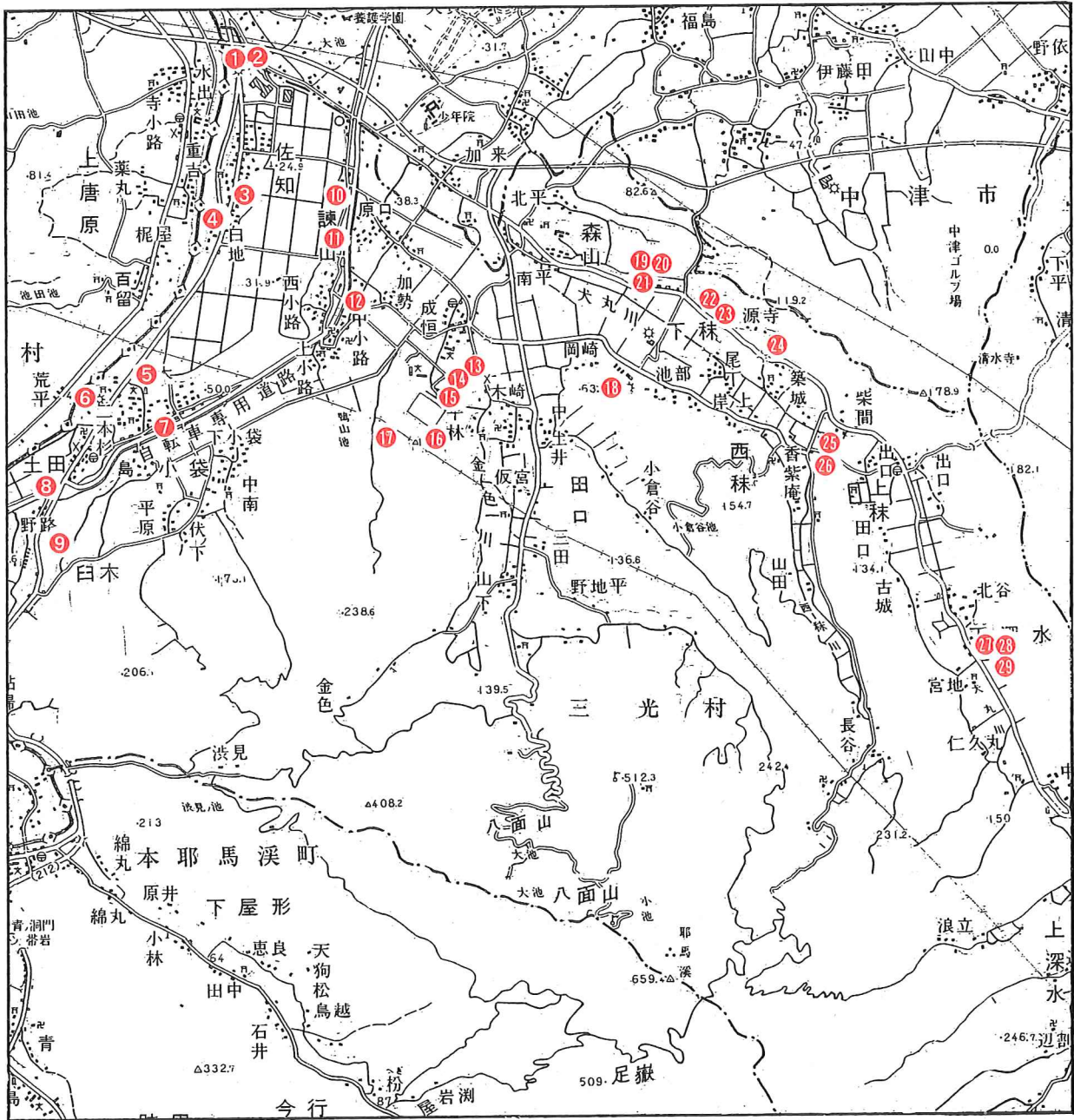
原田昭年（平成12年5月～）

作業員：地元有志

2. 位置と環境

三光村は大分県の北端にあって、村の西側には福岡県との境となる一級河川山国川が悠々と流れ、周防灘へと注いでいる。また村の西側には村のシンボルである、標高659mの八面山がひかえ、中津平野に向かっていくつかの低い丘陵を形成し、またその裾部は開析谷によって開けている。三光村の現在の人口は5,800人であるが、近年の住宅等の建設により少しずつではあるが人口が増えつつある。

三光村内に所在する遺跡はかなりの数にのぼり、それらの遺跡の多くは、山国川から延びる低位丘陵および山国川をはじめとした川の周辺に広がる平野部に所在している。幸いにも遺跡の多くは、現在まで開発による破壊を免れており、村内は遺跡の宝庫である。しかし開発の波は確実に押し寄せてきており、本格的な発掘調査が行われることも多くなってきた。それによって村内の遺跡の様子も分かってきている。



第1図 三光村内遺跡分布図 (S = 1/50000)

1. 佐知久保畑遺跡
2. 上ノ原横穴墓群
3. 佐知柿木遺跡
4. 佐知遺跡群
5. 真坂地区
6. 城の百穴横穴墓群
7. 臼木古墳3号墳
8. 土田若林地区
9. 臼木上ノ原遺跡
10. 原口遺跡群
11. 諫山遺跡群
12. 諫山糸永遺跡
13. 成恒地区
14. 瑞雲遺跡
15. 成恒笹原遺跡
16. 庵ノ尾横穴墓群
17. 鴨山横穴墓群
18. 岡崎遺跡
19. 倉迫平古墳
20. 倉迫二ツ塚古墳
21. 野辺田横穴墓群
22. 三塚古墳
23. 天神原横穴墓群
24. 大源寺横穴墓群
25. 深秣地区
26. 塔ノ熊廃寺
27. ブリヤネ城跡
28. 深水邸埋納遺跡
29. 下深水小路遺跡

第2章 調査の内容

1. 土田若林地区

調査地は、眼下に山国川を望む河岸段丘上に位置する。周辺の丘陵には、石蓋土坑墓群が検出された臼木上ノ原遺跡や村指定の史跡となっている臼木古墳群などがある。また山国川の周辺では城の百穴横穴墓群などがあり、調査地の周辺には多くの遺跡が所在している。

今回は病院の建設に伴う事前調査で、予定地約10,000㎡を対象に試掘を行った。

バックフォーにより、数本のトレンチを入れ調査を行ったが、後世の開発もあり遺物・遺構ともに全く確認されなかった。



第2図 土田若林地区トレンチ位置図 (S = 1 / 5000)

2. 瑞雲遺跡

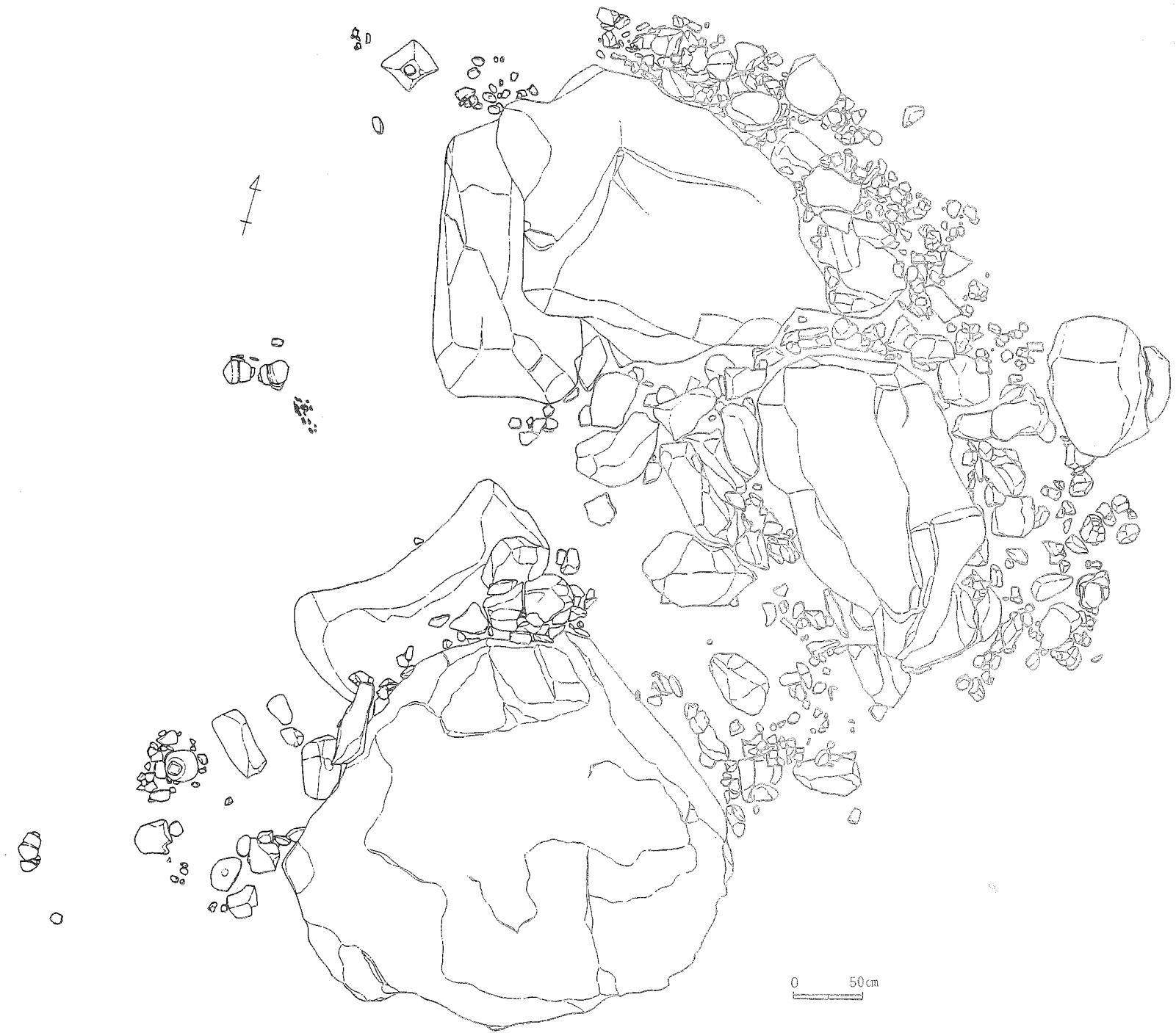
瑞雲遺跡は、三光村大字成恒に位置する。この遺跡は、村の保育園建設のための周辺開発として行われる工事に伴って調査が行われた。調査対象面積は約30㎡である。

調査は遺跡の性格上、全て手作業で行った。調査は平成8年から行われ、結果、4つの巨石と多くの遺物を確認することが出来た。また当初、工事により遺跡の一部を開発する予定であったが、遺構は全て公園地の一部として保存されることとなった。

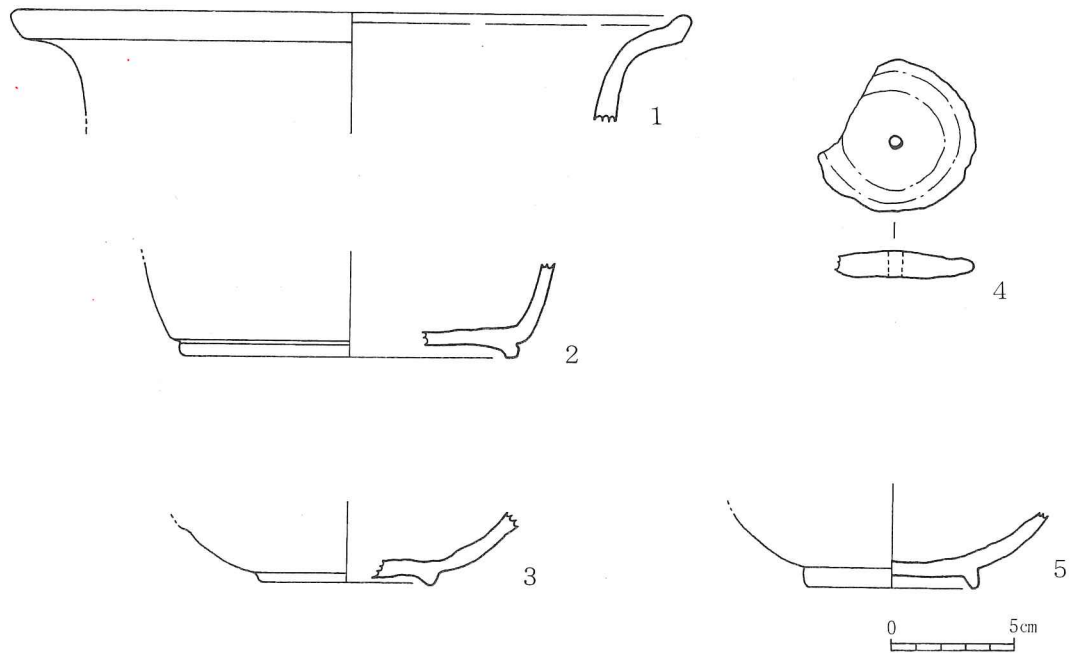
遺構は3つの巨石をL字型にたてた状態で配置しており、またその前面には1つの巨石をねせた状態で配している。遺物の多くは4つの巨石に囲まれた中央部から出土している。



第3図 瑞雲遺跡位置図 (S = 1 / 5000)



第4圖 瑞雲遺跡平面圖 (S=1/40)



第5図 瑞雲遺跡土器実測図 (S=1/3)

3. 臼木上ノ原遺跡

調査地は、三光村大字臼木に位置する。この遺跡は農作業中偶然に発見された。連絡を受けた三光村教育委員会では、2年にわたり調査を行うこととし、遺跡の内容また範囲の確認などを行った。

調査の結果、11基の墓と1基の落とし穴状遺構、また溝状遺構などを確認することが出来た。

第1号墳

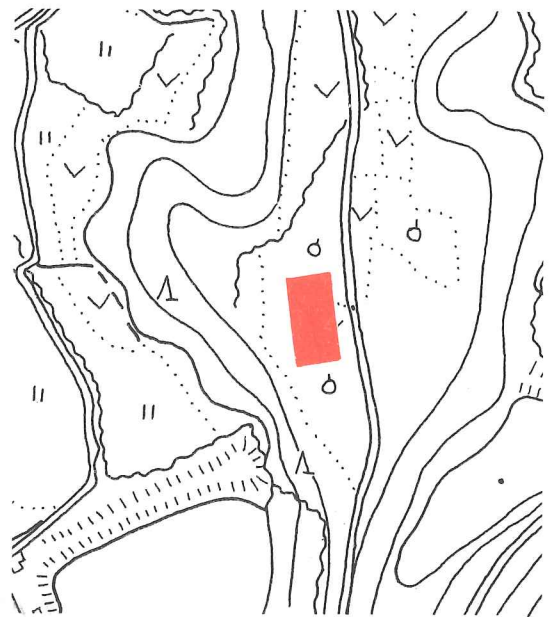
規模は、長軸2.2m×短軸0.6m×深さ0.45mを測る。内部側面には石を配しているが、床面には石を配しない。蓋石は5枚を甲重ねしている。

第2号墳

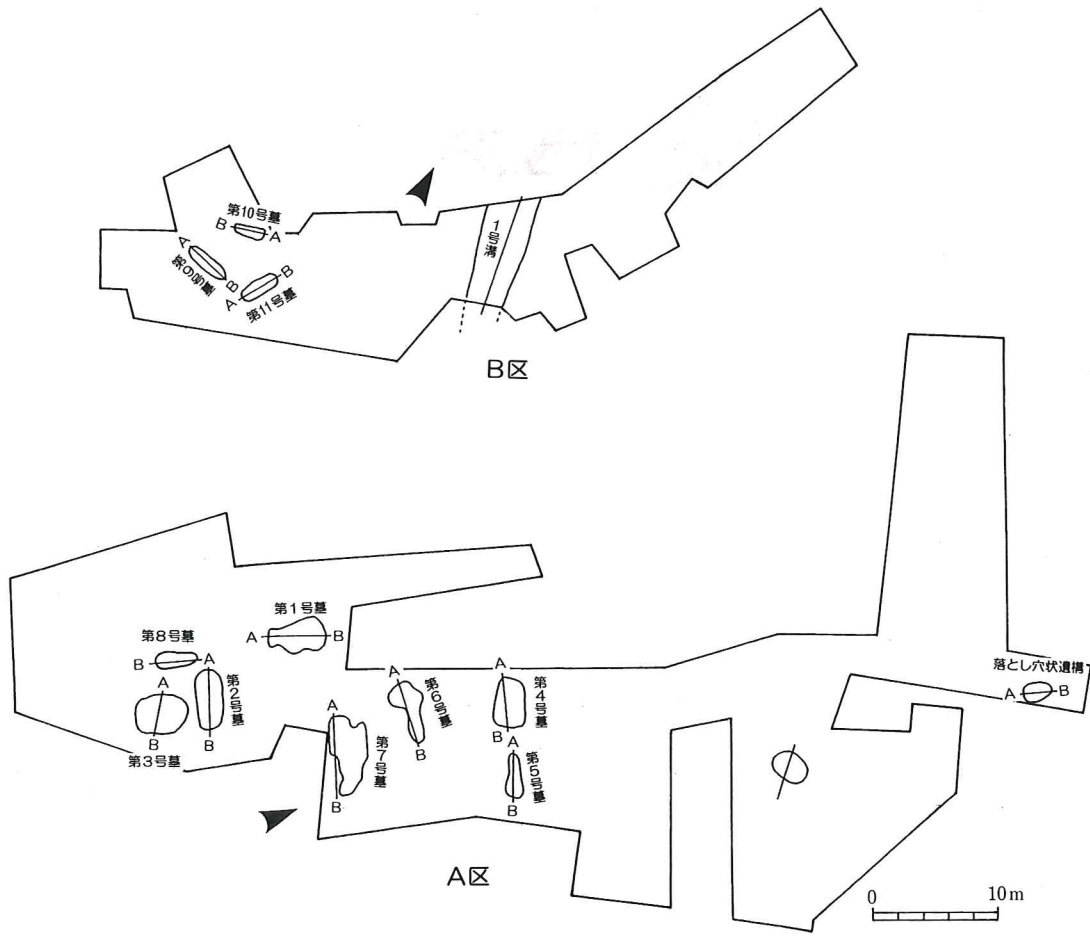
規模は、長軸2.1m×短軸0.7m×深さ0.45mを測る。土坑床面はほぼ平坦であるが、土坑の西側がやや広くつくられており、頭位方向と思われる。蓋石は頭位側より、9枚を甲重ねしている。

第3号墳

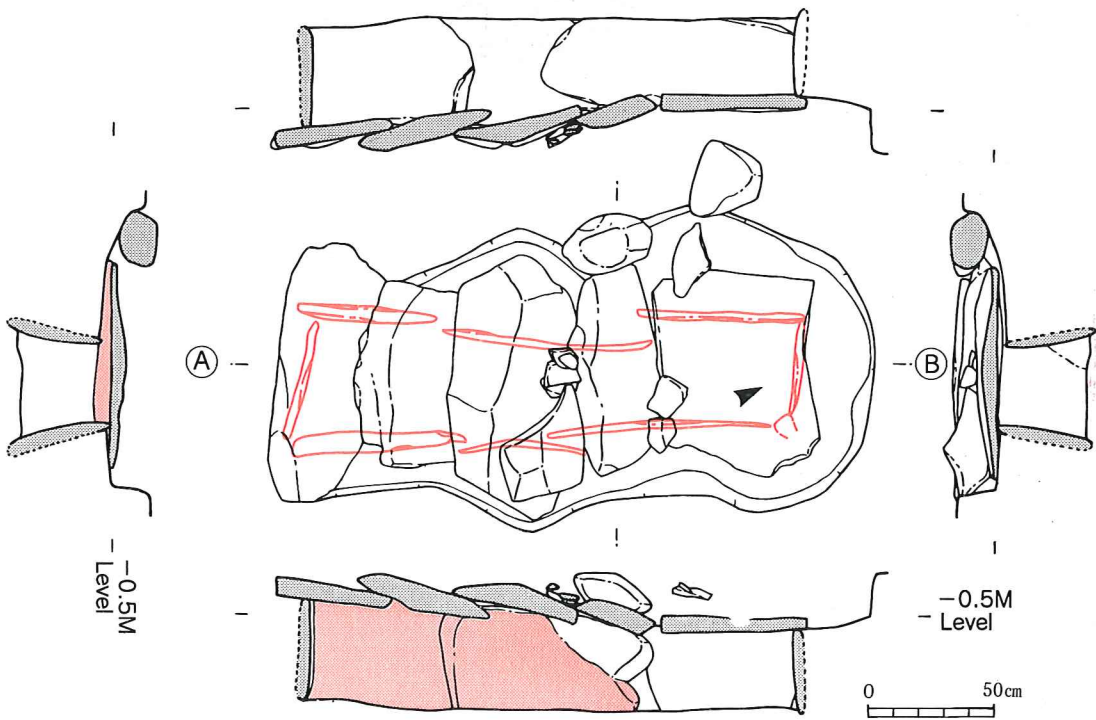
二段に掘り込まれている。規模は、長軸1.9m×短軸1.4mの墓坑に、長軸1.7m×短軸0.65m×深さ0.6mの土坑を掘り込んでいる。床面は、北側が一段高くなっており、また北側がやや広くつくられていることにより、頭位方向と思われる。蓋石は頭位側より6枚を甲重ねしている。また足位側では蓋石が土坑の中に半分落ち込んでいる。



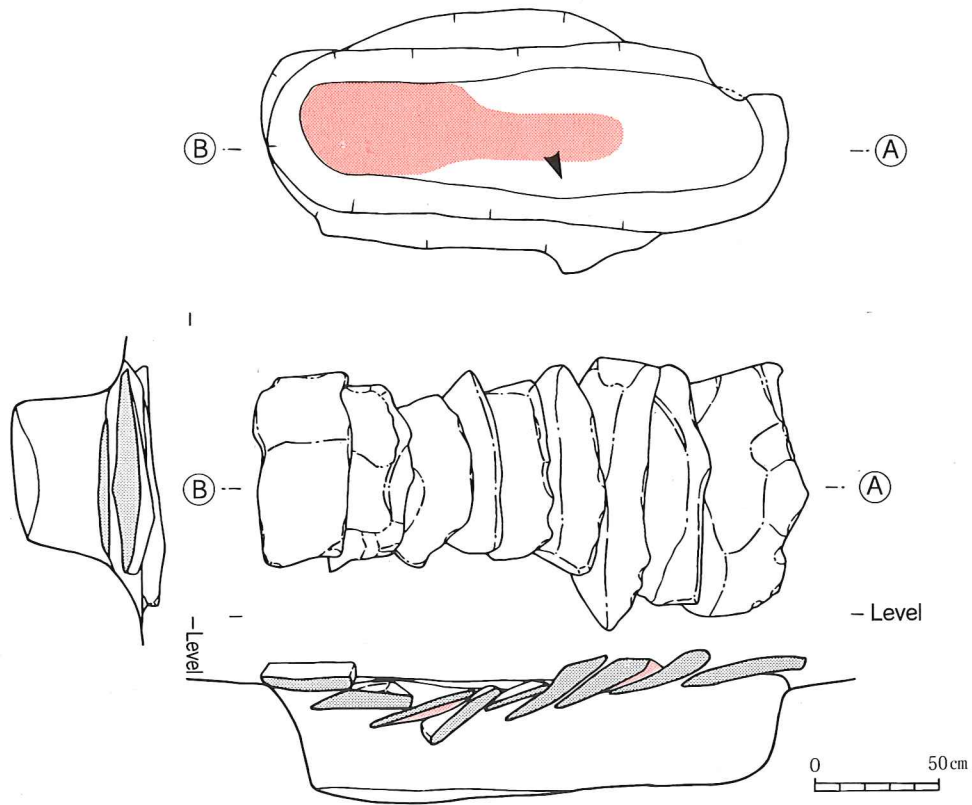
第6図 臼木上ノ原遺跡トレンチ位置図 (S=1/5000)



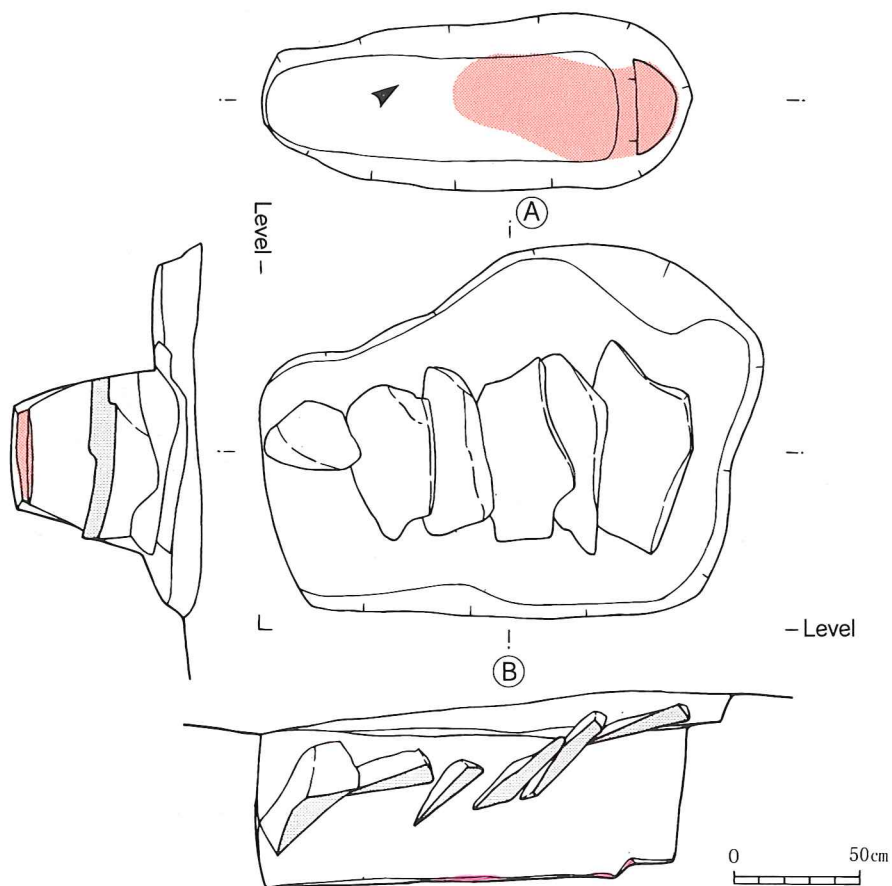
第7図 白木上ノ原遺跡遺構配置図 (S = 1 / 300)



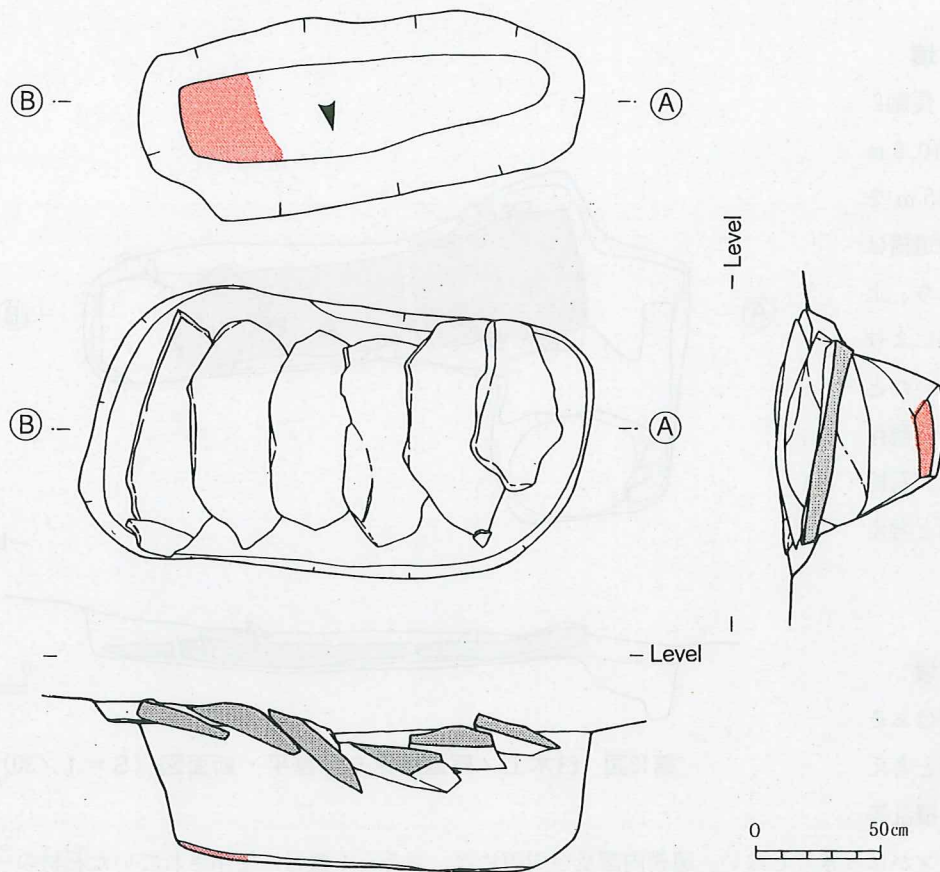
第8図 白木上ノ原遺跡第1号墓平・断面図 (S = 1 / 30)



第9図 臼木上ノ原遺跡第2号墓平・断面図 (S = 1/30)



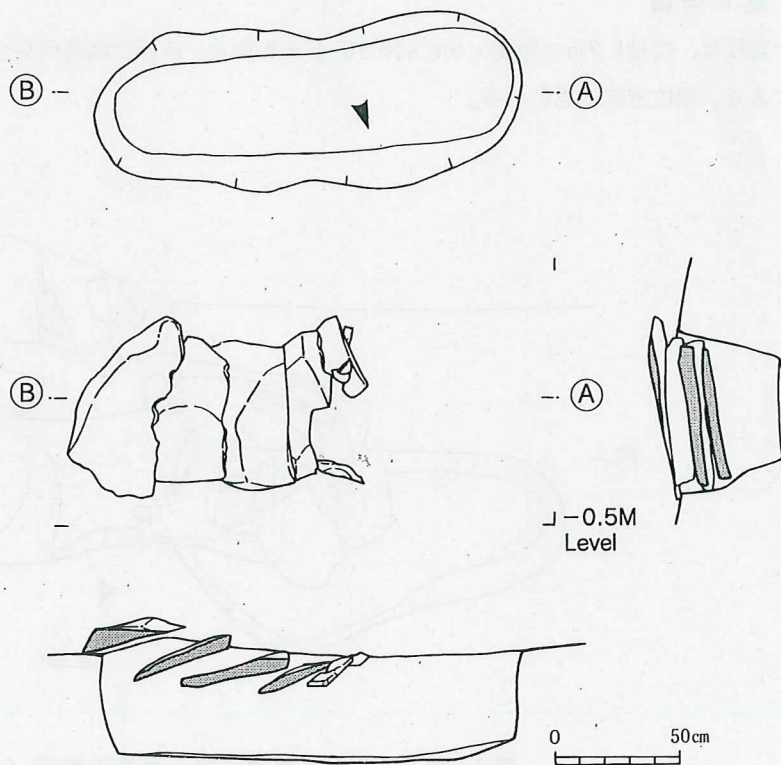
第10図
臼木上ノ原遺跡
第3号墓平・断面図
(S = 1/30)



第11図 臼木上ノ原遺跡第4号墓平・断面図 (S = 1 / 30)

第4号墳

二段に掘り込まれている。規模は、長軸2.0m×短軸1.05mの墓坑にやや対角に長軸1.8m×短軸0.7m×深さ0.55mの土坑を掘り込んでいる。床面はやや東側が高く、広くつくられていることにより頭位方向と思われる。蓋石は頭位側より6枚を甲重ねしている。



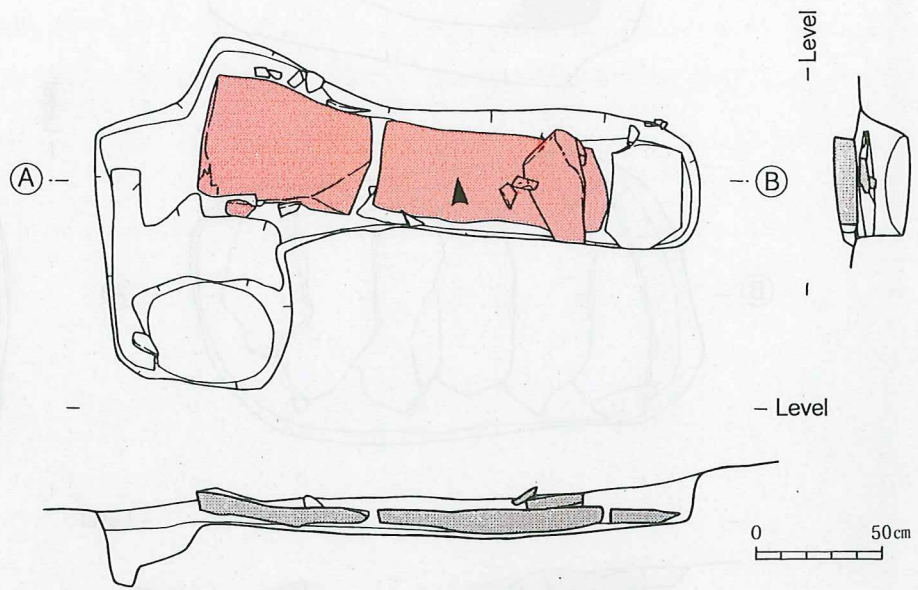
第5号墳

規模は、長軸1.6m×短軸0.55m×深さ0.4mを測る。床面は西側が若干高く、また広くつくられていることにより、頭位方向と思われる。蓋石は頭位側が欠損しているが、現存で4枚を甲重ねしている。

第12図 臼木上ノ原遺跡第5号墓平・断面図 (S = 1 / 30)

第 6 号墳

規模は、長軸2.4m×短軸0.5m×深さ0.15mを測る。この遺構は検出状況より、上部が開発等により削平されていたと考えられる。現存する遺構は、石棺墓等の床面と考えられる。



第13図 臼木上ノ原遺跡第6号墓平・断面図 (S = 1/30)

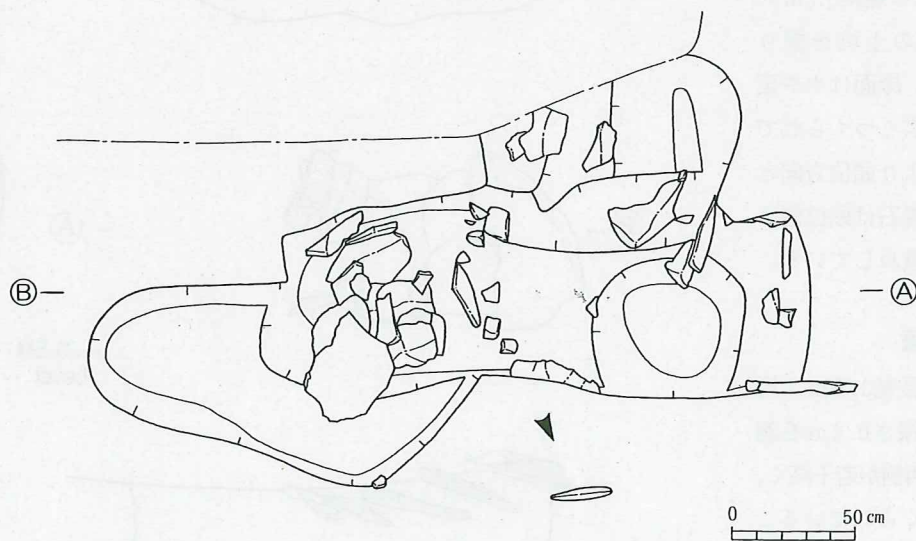
第 7 号墳

この遺構はおそらく土坑墓と考えられるが、攪乱等

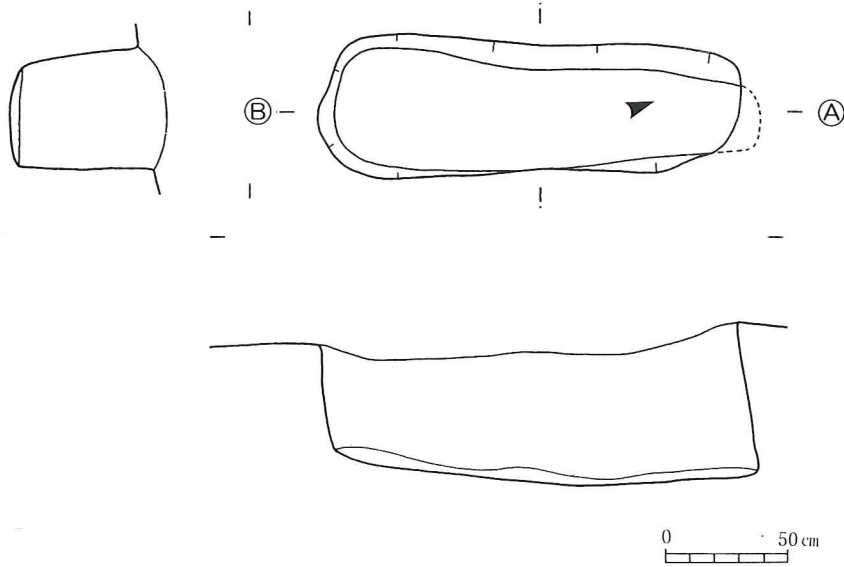
によりプランがはっきりしない。遺構内部及び周辺には、おそらく蓋石に使用されていた石材の一部と思われる石材が散在している。

第 8 号墳

規模は、長軸1.7m×短軸0.5m×深さ0.47mを測る。床面は南側がやや高く、また広くつくられていることにより、頭位方向と思われる。



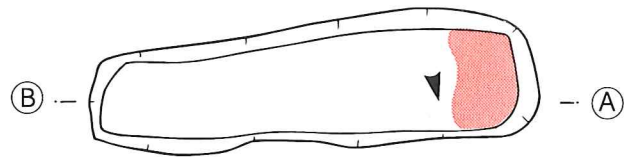
第14図 臼木上ノ原遺跡第7号墓平面図 (S = 1/30)



第15図 白木上ノ原遺跡第8号墓平・断面図 (S = 1/30)

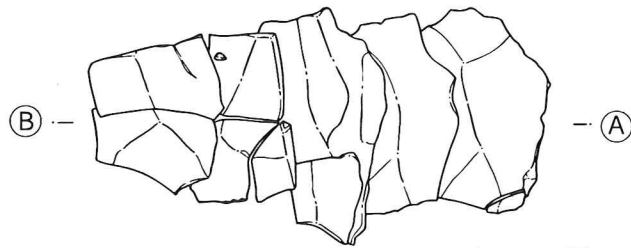
第9号墳

規模は、長軸1.8m×短軸0.53m×深さ0.34mを測る。床面は北西側がやや高く、また広くつくられていることにより、頭位方向と思われる。蓋石は頭位側より5枚を甲重ねしている。



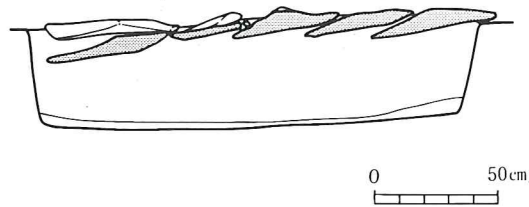
第10号墳

規模は、長軸1.2m×短軸0.6m×深さ0.29mを測る。床面は北西側がやや広くつくられていることにより、頭位方向と思われる。蓋石は頭位側より5枚重ねしている。

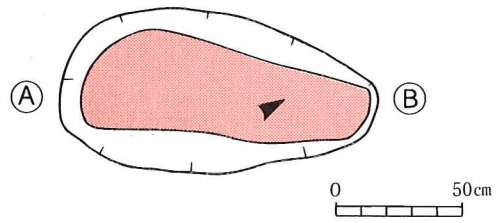
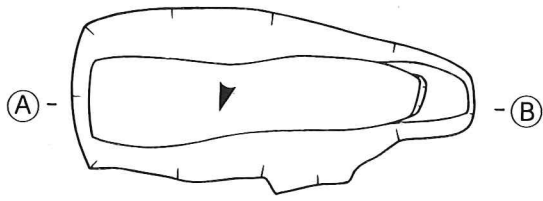


第11号墳

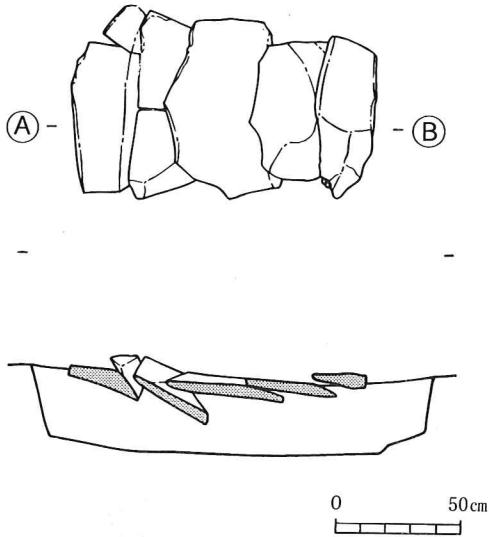
規模は、長軸1.25m×短軸0.65m×深さ0.3mを測る。床面は北西側がやや広くつくられていることにより、頭位方向と思われる。



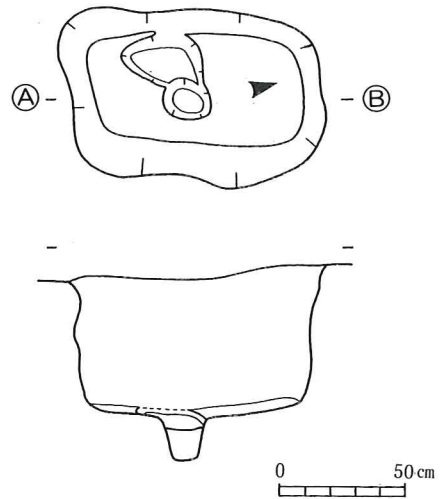
第16図 白木上ノ原遺跡第9号墓平・断面図 (S = 1/30)



第18図 臼木上ノ原遺跡第11号墓平面図 (S = 1 / 30)



第17図 臼木上ノ原遺跡第10号墓平・断面図 (S = 1 / 30)



第19図 臼木上ノ原遺跡落とし穴状遺構平・断面図 (S = 1 / 30)



第20図 臼木上ノ原遺跡1号溝平面図 (S = 1 / 40)

落とし穴状遺構

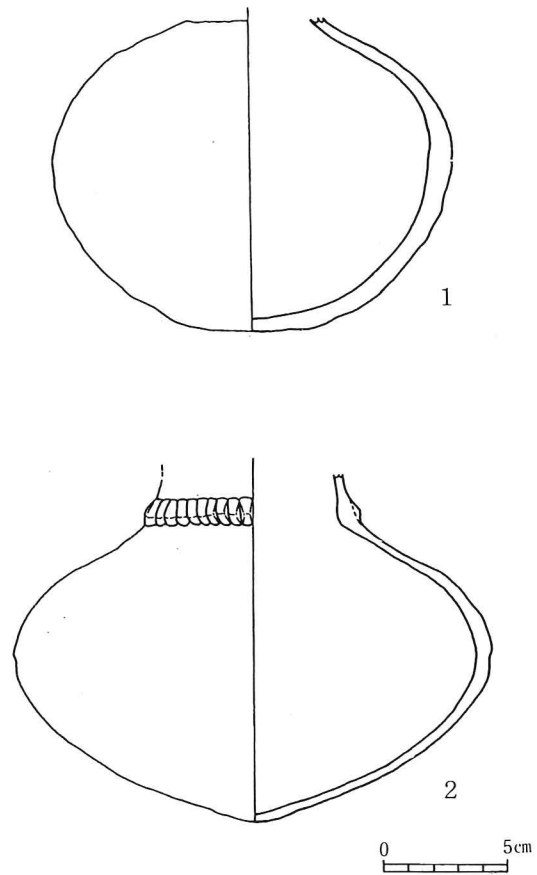
規模は、長軸1.0m×短軸0.65m×深さ0.55mを測る。
床面のほぼ中央部に径0.18m×深さ0.2mの穴がある。

1号溝

B調査区のほぼ中央部に南北にかけて検出された。確認された遺構の規模は、長軸5.0m×短軸2.0m×深さ0.33mである。遺構中央部には、こぶし大から人頭大程の石が多く入り込んでいた。また土器片等もその周辺で確認された。

4. 佐知柿木遺跡

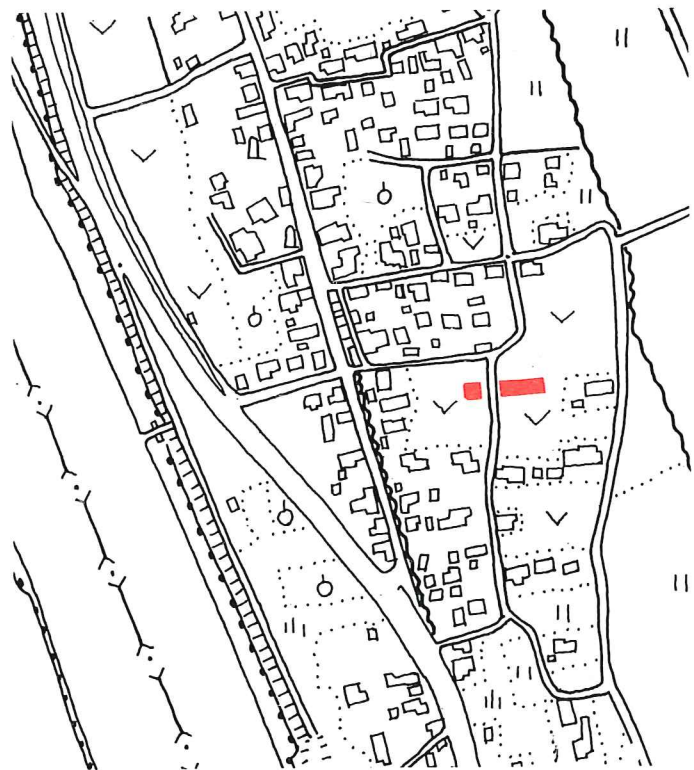
調査地は三光村大字佐知に位置する。この遺跡は個人住宅の建設に伴う事前調査で、30㎡を対象に平成8年に調査を行った。その結果、遺構は確認できなかったが、弥生時代中期の遺物を中心に多くの土器片を検出した。そのため、翌平成9年には周辺の畑地にもトレンチを入れ、調査を行った。結果、この周辺には弥生から中世にわたる遺構の存在することが確認された。



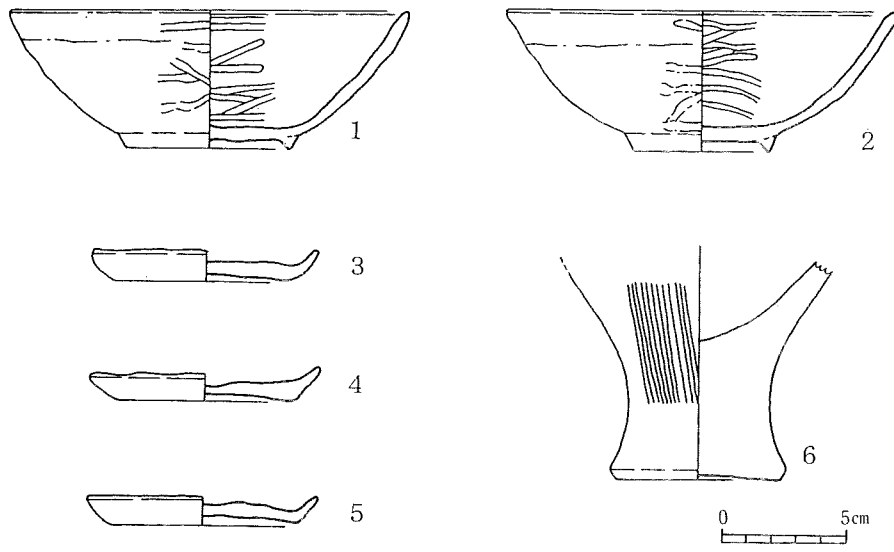
第21図 白木上ノ原遺跡1号溝出土遺物実測図 (S=1/3)

* 出土遺物 *

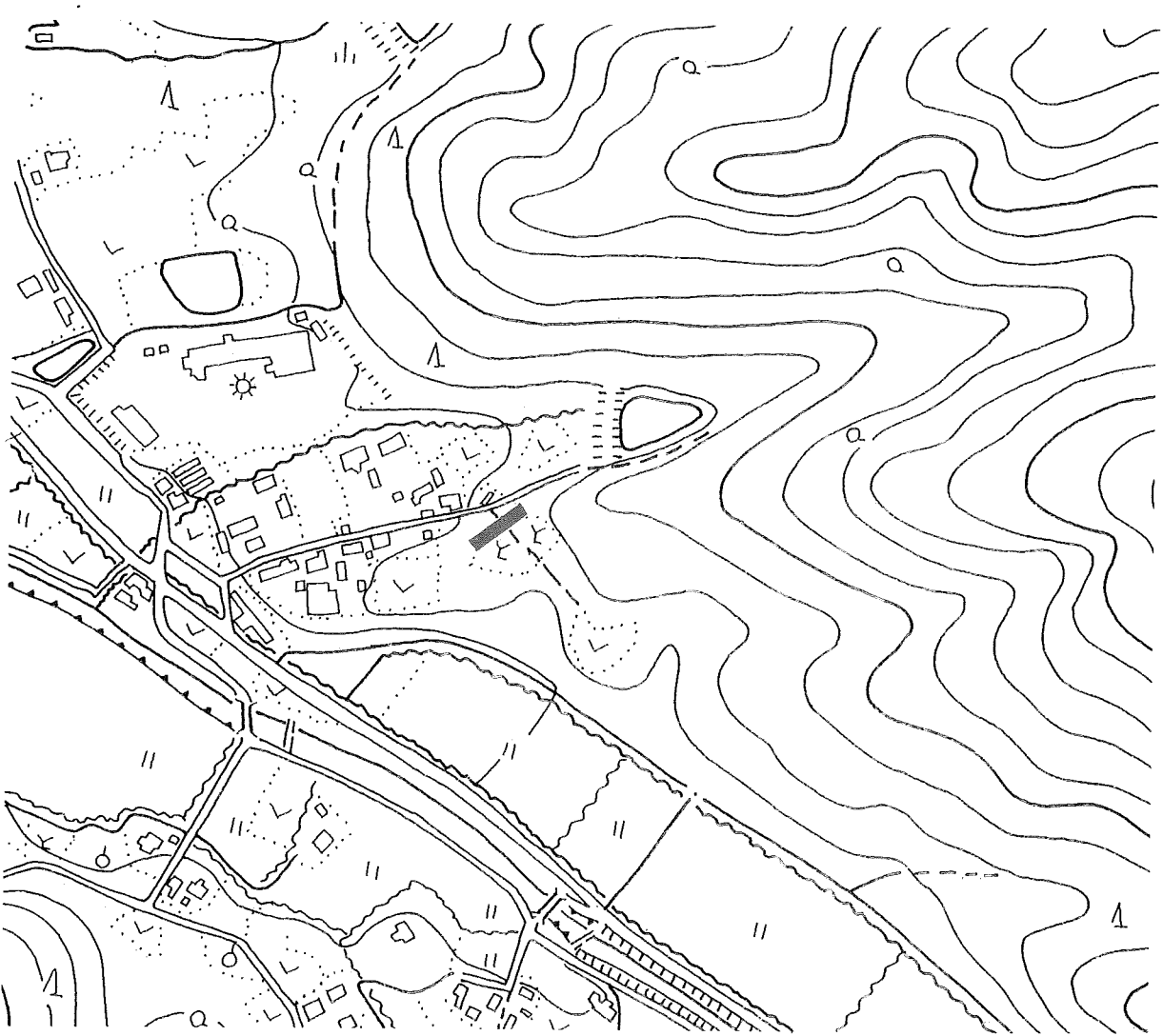
主な出土遺物は、弥生土器、瓦器碗、土師皿、須恵器片等である。1と2は完形の瓦器碗である。1は口径16.1cm、器高5.5cmを測る。色調は、内面は口縁部周辺は白灰色、他は黒灰色である。外面は口縁部周辺は黒灰色、他は白灰色である。2は口径15.8cm、器高5.6cmを測る。色調は、内面は口縁部周辺は白灰色、他は黒灰色で、外面は口縁部周辺は黒灰色、他は白灰色である。3～5は土師皿である。3は口径9.1cm、器高1.2cmを測る。色調は赤褐色である。4は口径9.4cm、器高1.4cmを測る。色調は赤褐色である。5は口径9.3cm、器高1.2cmを測る。色調は赤褐色である。6は弥生中期の甕の底部である。底部径6.7cm、残存器高は8.7cmである。



第22図 佐知柿木遺跡トレンチ位置図 (S=1/5000)



第23図 佐知柿木遺跡出土遺物実測図 (S=1/3)



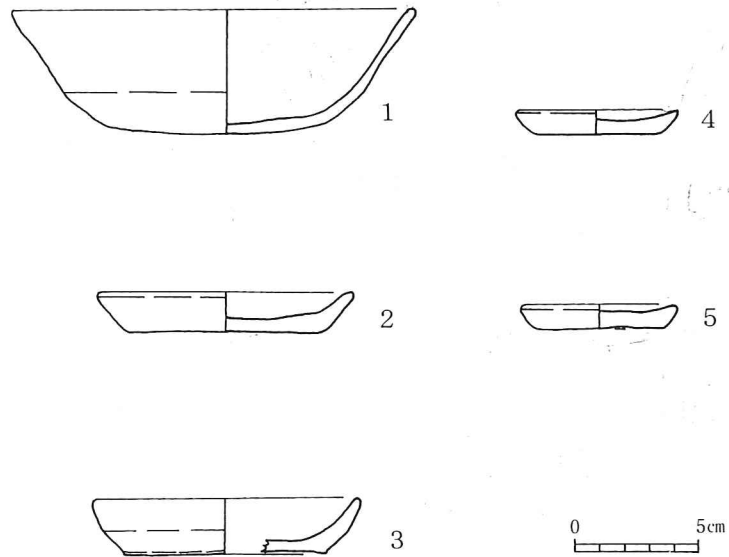
第24図 下深水小路遺跡トレンチ位置図

5. 下深水小路遺跡

調査地は、三光村大字下深水に位置する。この遺跡は、村の住宅建設に伴って平成9年に調査が行われた。調査の結果、中世の集落を確認することが出来た。また現在の集落の構成も、中世の集落の様相を色濃く残している。

* 出土遺物 *

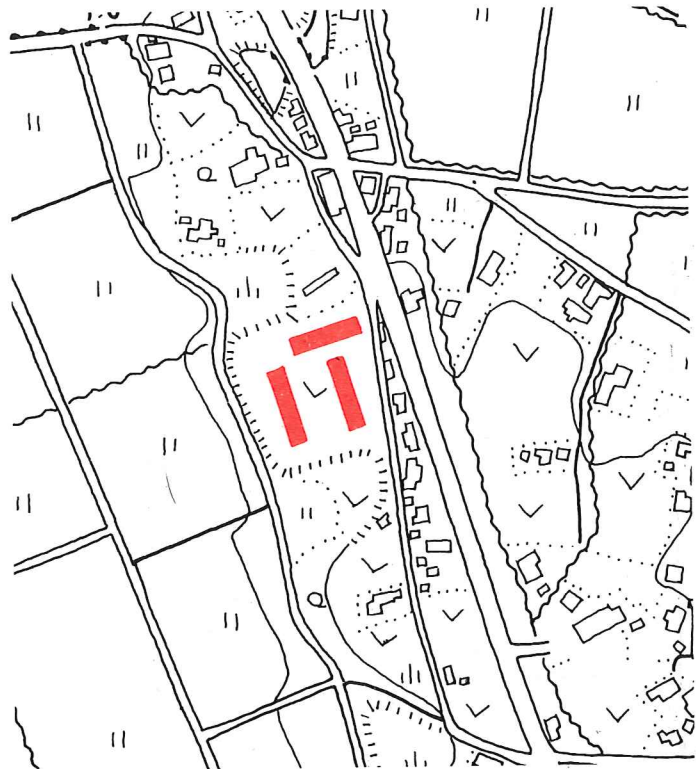
1は瓦器碗である。口径15.9cm、器高5.0cmを測る。色調は灰色で、一部濃灰色、白灰色をしている。焼成は良好である。2～5は土師皿である。2は口径10.3cm、器高1.6cmを測る。色調は黄褐色である。焼成は、やや不良である。3は口径10.8cm、器高2.2cmを測る。色調は内面が黄褐色、外面が赤褐色である。焼成は、やや良好である。4は口径6.5cm、器高1.0cmを測る。色調は暗褐色、一部赤褐色である。焼成は、やや不良である。5は口径6.3cm、器高0.9cmを測る。色調は赤褐色である。焼成は、やや不良である。



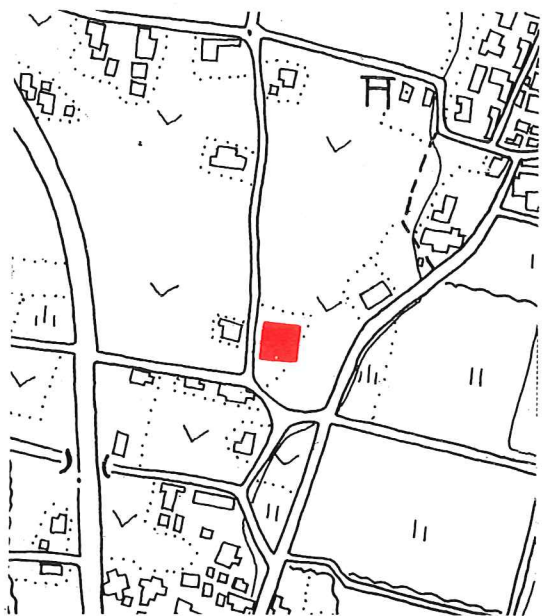
第25図 下深水小路遺跡出土遺物実測図 (S=1/3)

6. 原口遺跡群

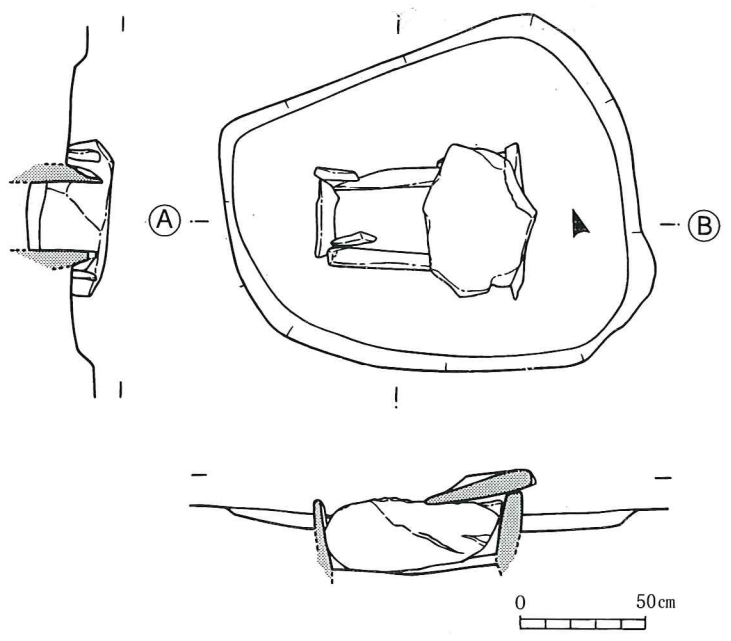
調査地は、三光村大字原口に位置する。この遺跡は、幼稚園の建設に伴って調査が行われたものである。調査は平成9年から10年にかけて行われた。調査地の周辺には諫山遺跡等があり、石蓋土坑墓や弥生時代の集落等が確認されていたため、試掘を行ったが、調査の結果遺物、遺構ともに確認できなかった。



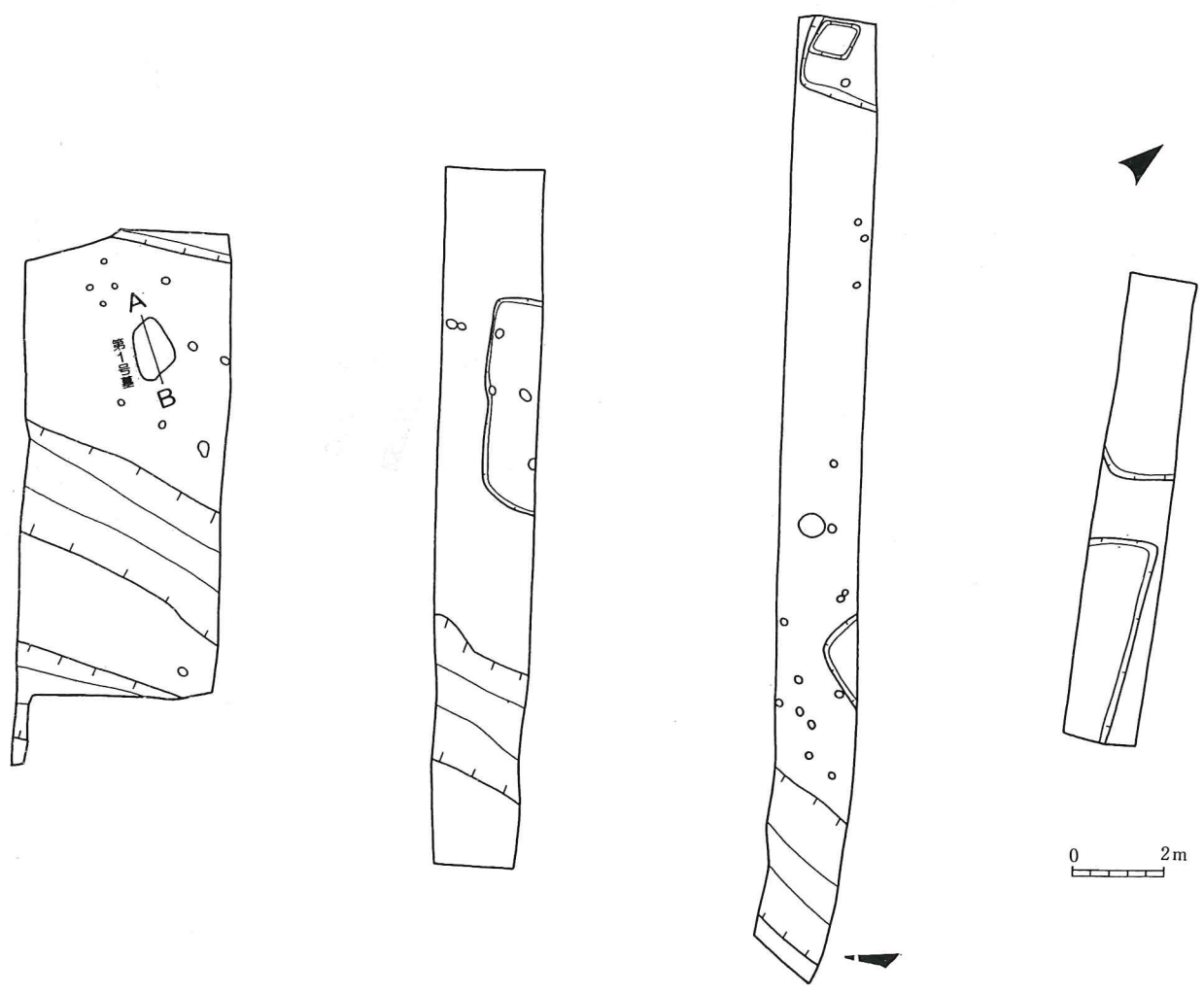
第26図 原口遺跡群トレンチ位置図



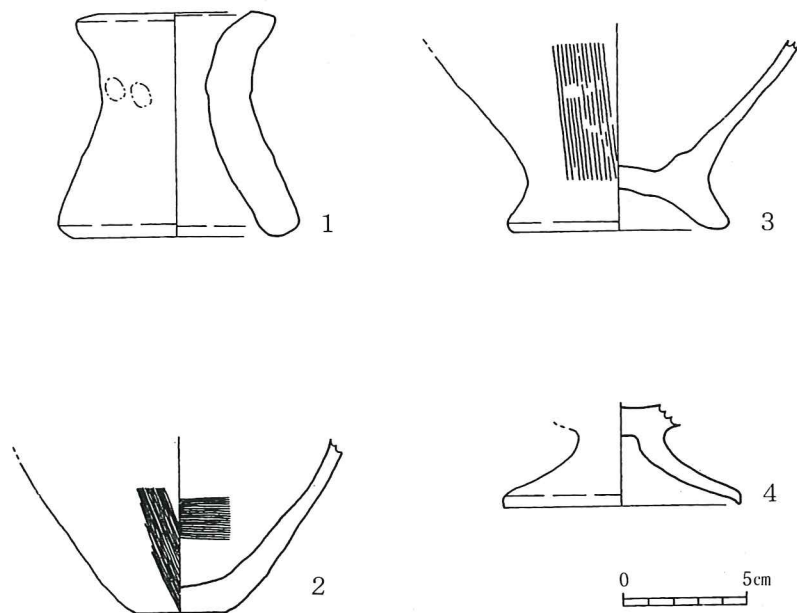
第27図 諫山糸永遺跡トレンチ位置図 (S = 1/500)



第28図 諫山糸永遺跡第1号墓平・断面図 (S = 1/30)



第29図 諫山糸永遺跡遺構配置図 (S = 1/200)



第30図 諫山糸永遺跡出土遺物実測図 (S=1/3)

7. 諫山糸永遺跡

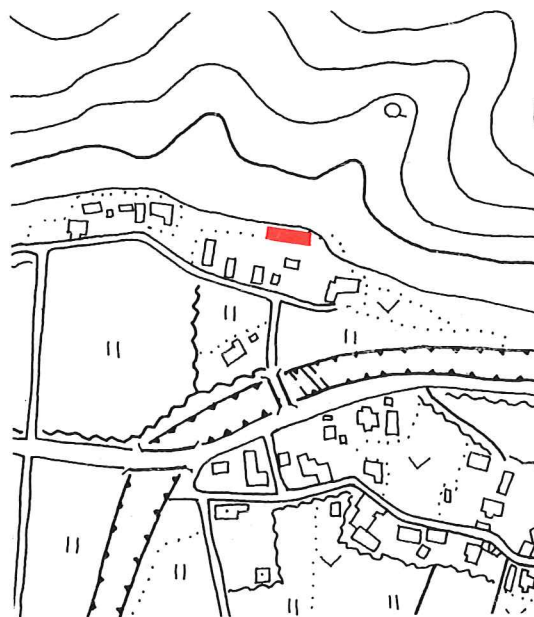
調査地は、三光村大字諫山に位置する。調査地の周辺では、近年住宅開発が進んでいたため、遺跡の範囲の確認及び性格等の確認のため、平成9年に調査を行った。調査の結果、溝状遺構1条・石棺墓1基、竪穴土坑5基等を確認することが出来た。また弥生中期～古墳にかけての土器を確認することが出来た。

第1号墓

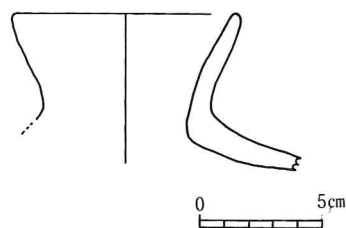
二段に掘り込まれている。規模は、長軸1.7m×短軸1.3m×の墓坑に、長軸0.8m×短軸0.4m×深さ0.3mの土坑を掘り込んでいる。床面は石を置かず、側面のみ石を配している。蓋は1枚のみ、現存している。

8. 大源寺横穴墓群

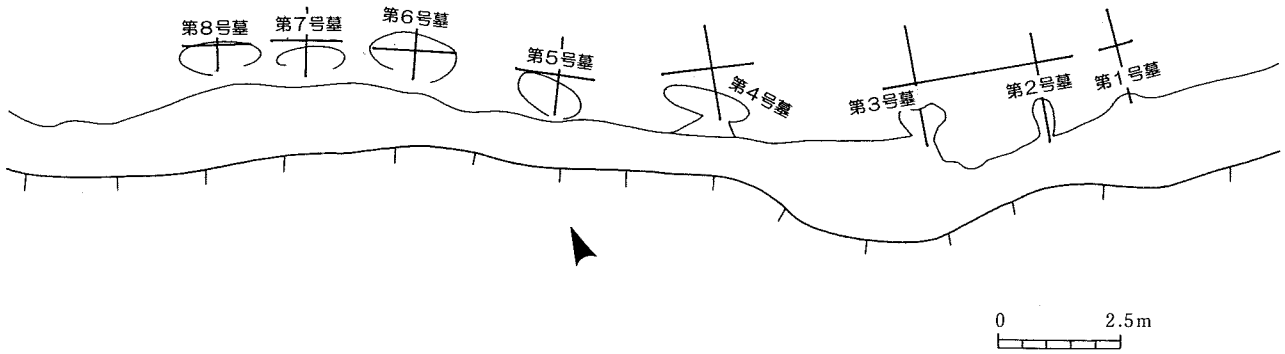
調査地は、三光村大字西秣に位置する。この遺跡の周辺には多くの横穴墓が存在することが、以前から周知されていた。調査地は個人の宅地造成に伴って、調査が行われた。調査の結果8基の横穴墓を確認することが出来たが、すでに造成作業が行われており、遺跡の一部は工事によって掘



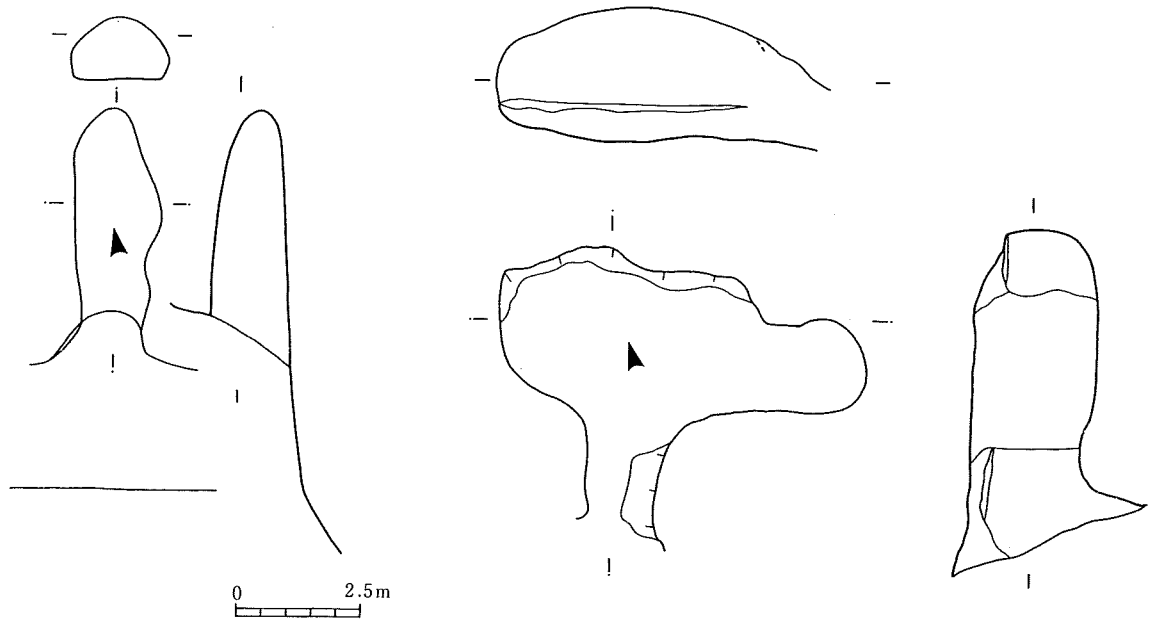
第31図 大源寺横穴墓群位置図



第32図 大源寺横穴墓群
出土遺物実測図 (S=1/3)



第33図 大源寺横穴墓群遺構配置図 (S = 1/200)



第34図 大源寺横穴墓群第1号墓平・断面図 (S = 1/60)

第35図 大源寺横穴墓群第2号墓平・断面図 (S = 1/60)

削を受けていた。また、戦時中は防空壕として使用されていたこともあり、保存状態は極めて悪いものであった。そのため調査は、その遺跡の所在確認と、現存する遺構内部を調査するにとどまった。

第1号墓

現存する玄室は、長さ1.6m×幅0.6m×高さ0.5mを測る。遺構は保存状態が悪く、壁等に落盤等が見られる。

第2号墓

現存する玄室は、長さ1.5m×幅1.8m×高さ0.9mを測る。壁、天井等は落盤が見られるものの、天井はドーム型と思われる。

第3号墓

現存する玄室は、長さ1.5m×幅2.1m×高さ1.0mを測る。壁、天井等は落盤が見られるものの、天井はドーム型と思われる。また第2号墓と第3号墓は、後世防空壕として使用されていたらしく、互いを連結させていた。

第4号墓

現存する玄室は、長さ1.9m×幅1.8m×高さ0.8mを測る。壁、天井等は落盤が見られるものの、天井はドーム型と思われる。

第5号墓

現存する玄室は、長さ1.5m×幅1.6m×高さ0.7mを測る。壁、天井等は落盤が見られるものの、天井はドーム型と思われる。

第6号墓

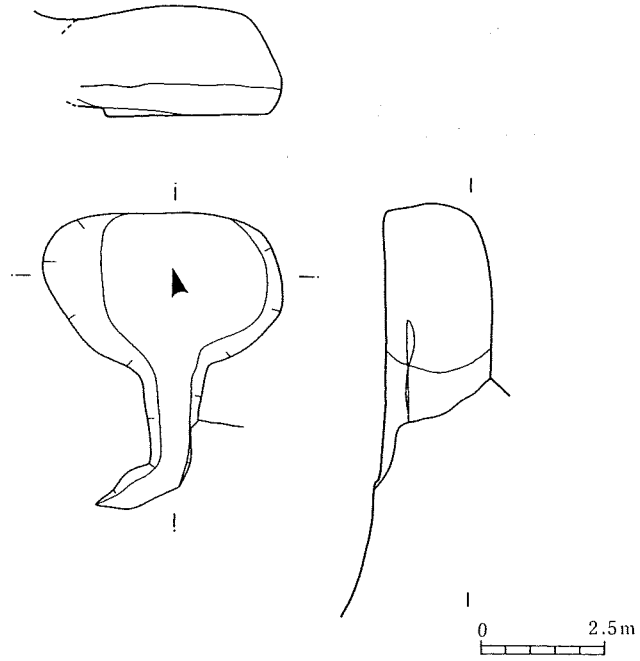
現存する玄室は、長さ1.1m×幅1.7m×高さ0.7mを測る。壁、天井等は落盤が見られるものの、天井はドーム型と思われる。

第7号墓

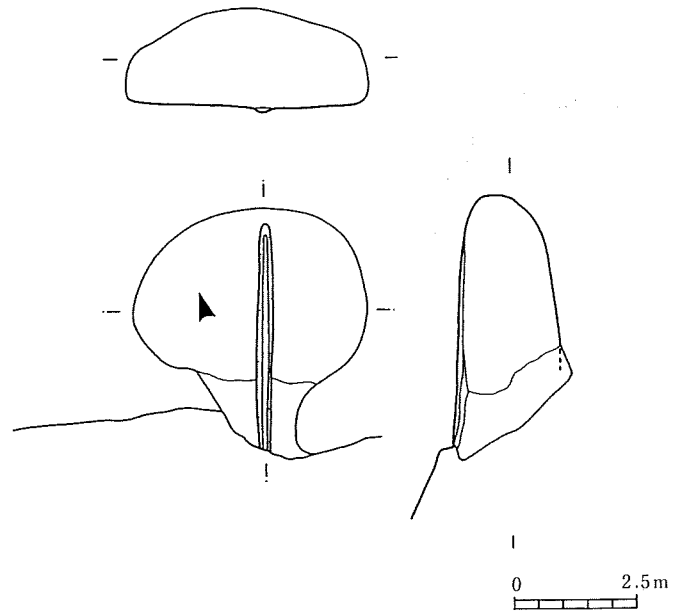
現存する玄室は、長さ1.3m×幅1.4m×高さ0.4mを測る。壁、天井等は落盤が見られるものの、天井はドーム型と思われる。

第8号墓

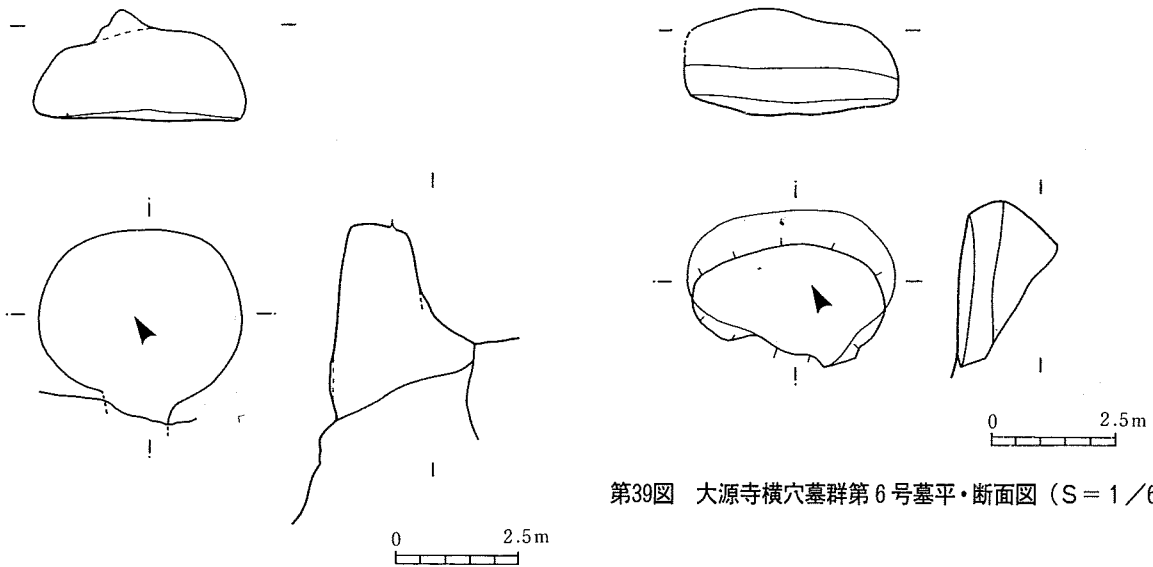
現存する玄室は、長さ1.3m×幅1.6m×高さ0.5mを測る。壁、天井等は落盤が見られるものの、天井はドーム型と思われる。



第36図 大源寺横穴墓群第3号墓平・断面図 (S = 1 / 60)

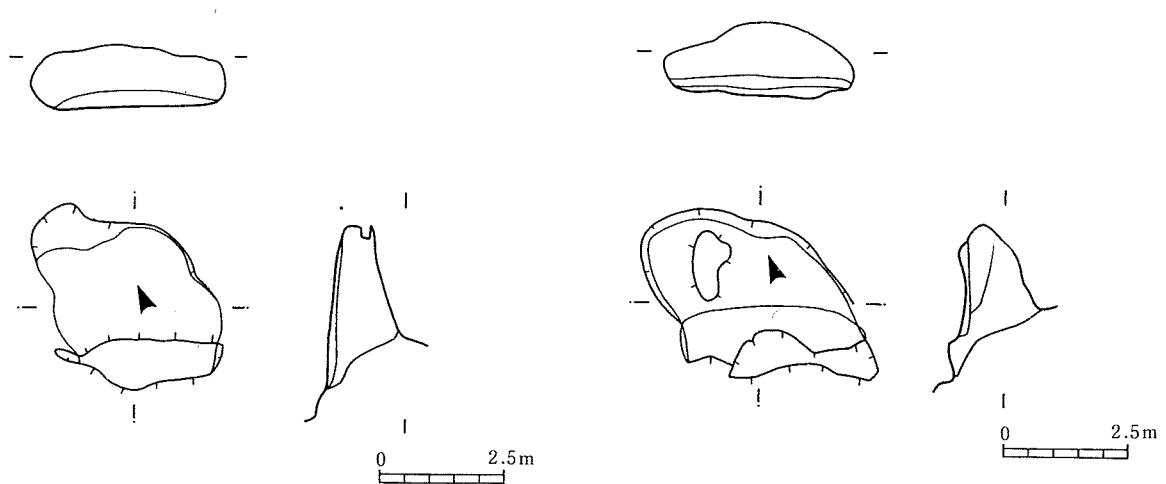


第37図 大源寺横穴墓群第4号墓平・断面図 (S = 1 / 60)



第39図 大源寺横穴墓群第6号墓平・断面図 (S = 1/60)

第38図 大源寺横穴墓群第5号墓平・断面図 (S = 1/60)



第41図 大源寺横穴墓群第8号墓平・断面図 (S = 1/60)

第40図 大源寺横穴墓群第7号墓平・断面図 (S = 1/60)

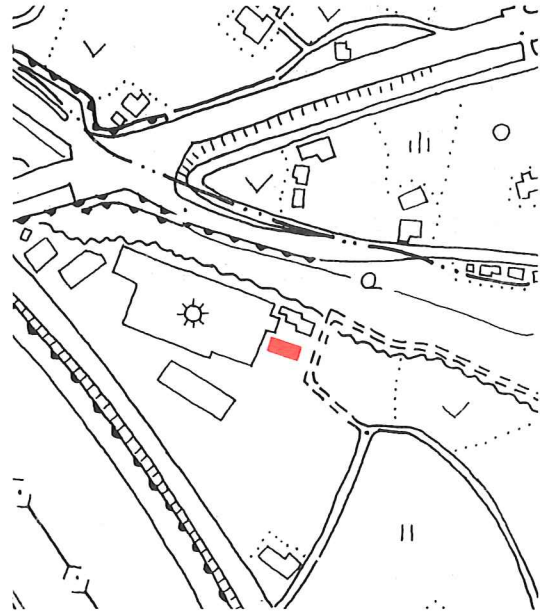
9. 佐知久保畑遺跡

調査地は三光村大字佐知に位置する。この遺跡は工場の移転及び造成に伴って調査が行われたものである。調査地の周辺には、上ノ原横穴墓や佐知遺跡をはじめとして多くの遺跡が所在している。調査の結果、弥生時代中期～古墳時代にかけての集落跡を確認することが出来た。

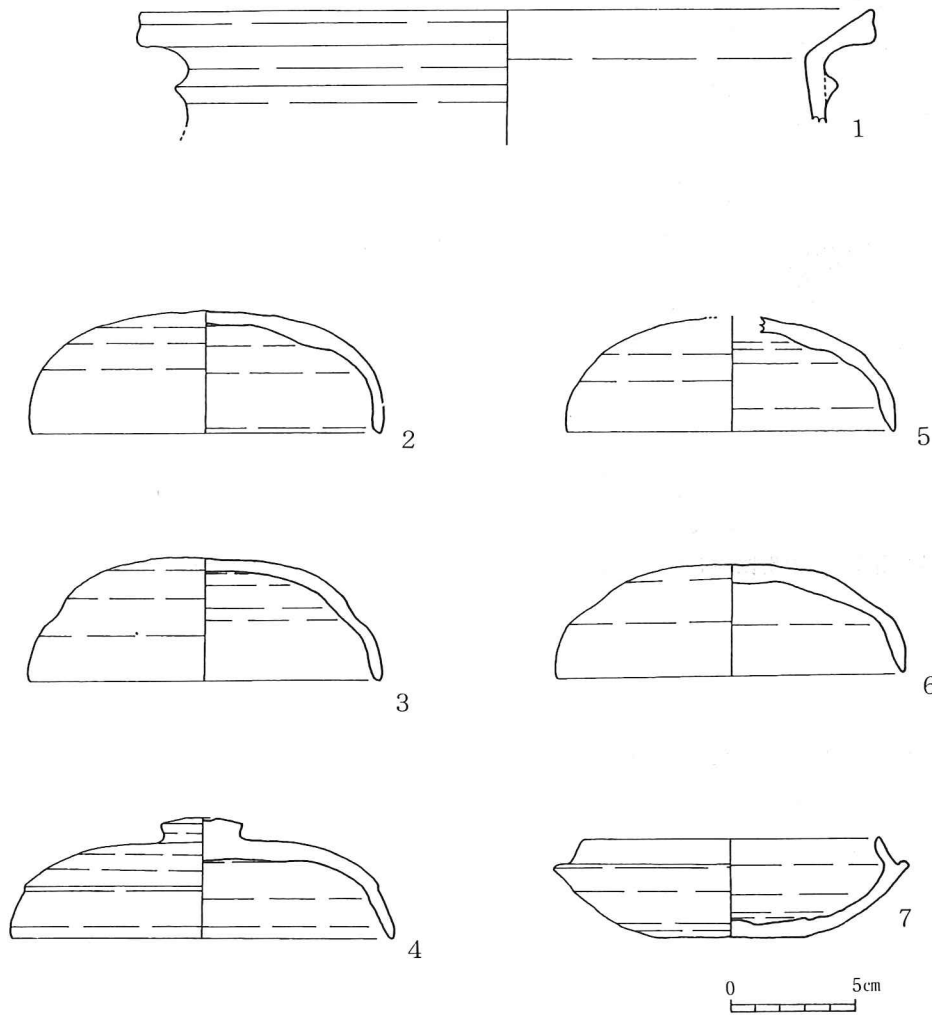
* 出土遺物 *

1は弥生中期の甕の口縁部である。口径29.5cmを測る。色調は暗褐色である。焼成は、良好である。2～6は須恵器の蓋杯である。2は口径14.0cm、器高5.0cmを測る。色調は灰白色である。焼成は、良好である。3は口径14.0cm、器高5.0cmを測る。色調は灰白色である。焼成は、良好である。4は口径15.2cm、器高4.9cm、つまみ径3.3cmを測る。色調は内面が黄灰色、外面はにぶい赤褐色である。焼成は、良好である。5は口径13.2cm、

器高4.6cmを測る。色調は浅黄色である。焼成は、不良である。6は口径13.9cm、器高4.5cmを測る。色調は浅黄橙色である。焼成は、やや不良である。7は杯身で口径11.9cm、器高4.0cm、受部径14.4cmを、底径6.0cm測る。色調は灰色である。焼成は、良好である。



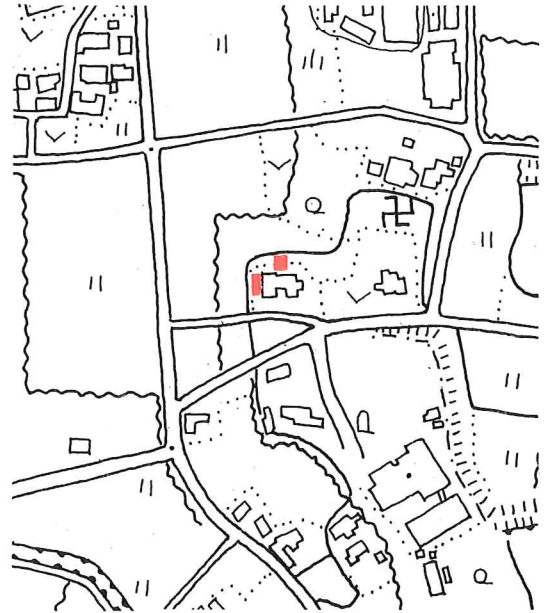
第42図 佐知久保畑遺跡トレンチ位置図



第43図 佐知久保畑遺跡出土遺物実測図 (S = 1 / 3)

10. 深秣地区

調査地は三光村大字西秣に位置する。周辺には塔ノ熊廃寺や塔ノ熊窯跡等の遺跡が所在している。調査地は村の保育園建設に伴って調査が行われたもので、平成10年にトレンチ法により調査を行った。調査の結果、遺構・遺物ともに確認することは出来なかった。



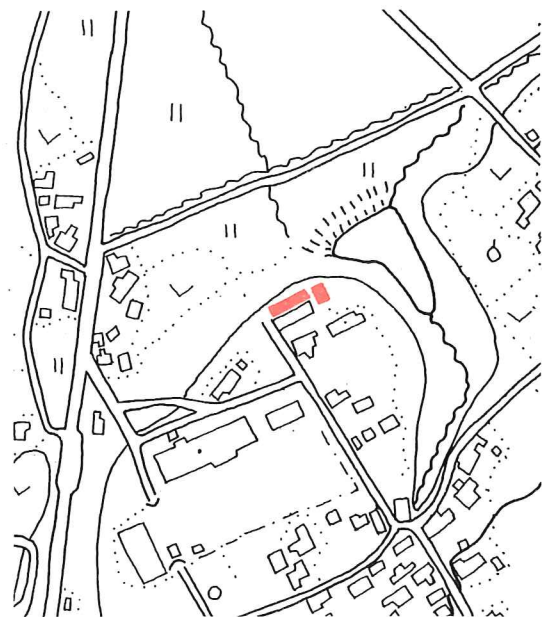
第44図 深秣地区トレンチ位置図

11. 成恒地区

調査地は三光村大字成恒に位置する。周辺には瑞雲遺跡等の遺跡が所在している。調査地は三光村中央公民館の公園建設に伴って調査が行われたもので、平成11年にトレンチ法により調査を行った。調査の結果、遺構・遺物ともに確認することは出来なかった。



第45図 成恒地区トレンチ位置図



第46図 真坂地区トレンチ位置図

12. 真坂地区

調査地は三光村大字真坂に位置する。周辺には城の百穴横穴墓群等の遺跡が所在している。調査地は村の保育園建設に伴って調査が行われたもので、平成11年にトレンチ法により調査を行った。調査の結果、遺構・遺物ともに確認することは出来なかった。



第47图 臼木古墳3号墳 平・断面図 (S=1/40)

13. 臼木古墳 3号墳

調査地は三光村大字臼木に位置する。この遺跡は三光村の指定史跡であるが、今まで本格的な調査が行われたことがなかったが、今回調査を行い測量等を行った。遺跡はすでに開口しており、また墳丘の盛土もなく石室が露出している状態であった。そのため遺物等も確認することが出来なかった。また天井石は後世、石採りの為に動かされたと思われ、南東側に移動していた。また石室内にはその際に使用されたと思われる石も確認された。

* 主体部 *

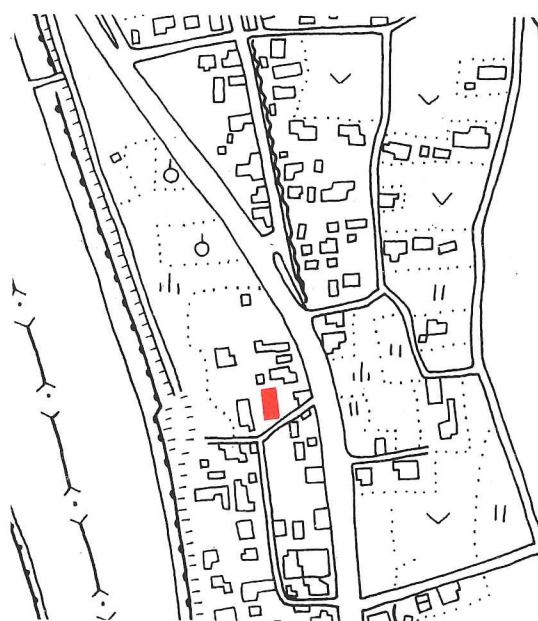
主体部は前述したように、天井石がすでに移動をしていたが、北東方面に開口した横穴式石室である。玄室の規模は主軸長約3.0m、奥壁幅1.8m、中央部幅1.65m、前壁幅1.65m、奥壁残存高1.45mを測る。奥壁は幅1.9m、高さ1.45mの大石を鏡石としている。両側壁は奥壁と鏡石と同様に大石を配している。床面は平坦で、径5～30cm程の河原石を敷き詰めている。

* 墓道 *

羨道は長さ約1.0mである。幅は羨門部で0.95m、玄門部で0.9mである。閉塞石は奥壁から4.7m程の位置で、現存で幅約0.7m、奥行約0.8mで確認された。石は径0.3～0.5m程の河原石で乱積みされていた。

14. 佐知遺跡群

調査地は三光村大字佐知に位置する。周辺には佐知遺跡等の遺跡が所在している。調査地は住宅の建設が多く行われている地区の周辺部にあたり、各種開発行為に対応するため、事前に遺跡の所在の確認を目的に調査が行われたもので、平成12年にトレンチ法により調査を行った。調査の結果、この調査地では遺構・遺物ともに確認することは出来なかった。



第48図 佐知遺跡群トレンチ位置図 (S=1/5000)

15. 文化財台帳

三光村では平成10年から、三光村文化財調査委員の協力を得て三光村の文化財について調査を行ってきた。これはひとつには、三光村ではいわゆる埋蔵文化財と呼ばれるものは、真坂・山口地区の平野部を中心に所在していたため、各種開発行為がその他の地区、特に山間部に及ぶ場合は、そこに何の遺跡・文化財が所在しているのか、把握することが極めて困難であった。その為各種開発行為に対応するためには、埋蔵文化財の把握だけでなく石造物等を含めた総合的な遺跡台帳が必要となってきた。調査はまず真坂・山口・秣・深水の各地区に分かれ、それぞれの地区で文化財の掘り起こし、さらに文化財台帳を作成し資料の収集に努めた。

No.	遺 跡 名	所 在 地	種 別	立 地	時 代	現 状 及 び 保 存 状 況
001	上ノ原横穴墓群	佐知・上ノ原	横穴墓	丘陵斜面	古墳	道路・一部消滅
002	佐知久保畑遺跡	佐知・久保畑	集落跡	河岸段丘	縄文・弥生・古墳	大型店舗・水田・畑・一部消滅
003	佐知遺跡群	佐知	集落跡	河岸段丘	縄文・弥生・古墳	道路・住宅・畑・一部消滅
004	城の百穴横穴墓群	土田・城	横穴墓	丘陵斜面	古墳	山林・良好
005	臼木遺跡群	臼木	包蔵地	台地	古墳	畑地・住宅・一部消滅
006	臼木古墳 1 号墳	臼木	墳墓	台地	古墳	山林・村指定
	臼木古墳 2 号墳	臼木	墳墓	台地	古墳	山林・村指定
	臼木古墳 3 号墳	臼木	墳墓	台地	古墳	山林・村指定
	臼木古墳 4 号墳	臼木	墳墓	台地	古墳	山林・村指定
007	外園遺跡	臼木・外園	墳墓	丘陵	中世	山林・一部消滅
008	原口遺跡	原口	包蔵地	台地	弥生・古墳	畑・住宅・良好
009	諫山遺跡群	諫山	包蔵地ほか	台地	弥生・古墳	住宅・道路・一部消滅
010	権現島遺跡	森山	包蔵地ほか	河岸段丘	縄文・中世	道路・一部消滅
011	北平横穴墓群	森山・北平	横穴墓	丘陵斜面	古墳	山林・良好
012	森山遺跡	森山	集落跡	丘陵	弥生	山林・道路・公園・一部消滅
013	洗添横穴墓群	森山・洗添	横穴墓	丘陵	古墳	山林・良好
014	美濃尾遺跡	下秣・美濃尾	集落跡・墳墓	丘陵	中世	工業用地・消滅
015	倉迫平遺跡	下秣・倉迫平	包蔵地	丘陵	古墳・中世	山林・工業用地・一部消滅
016	倉迫平 1 号墳	下秣・倉迫平	墳墓	丘陵	古墳	工業用地・消滅
017	野辺田横穴墓群	下秣・野辺田	横穴墓	丘陵斜面	古墳	山林・良好
018	倉迫二ツ塚古墳	下秣・二塚	墳墓	丘陵	古墳	工業用地・消滅
019	三塚古墳群	下秣・奥ノ谷	墳墓	丘陵	古墳	山林・良好
020	天神原横穴墓群	下秣・天神平	横穴墓	丘陵斜面	古墳	山林・良好
021	成恒遺跡群	成恒	包蔵地	台地	弥生・古墳	畑・住宅・良好
022	庵ノ尾横穴墓群	成恒・庵ノ尾	横穴墓	丘陵中腹	古墳	山林・良好
023	鴨山横穴墓群	諫山・小迫	横穴墓	丘陵中腹	古墳	山林・良好
024	瑞雲寺遺跡	成恒・瑞雲寺	寺院跡	台地	古代・中世	公民館・消滅・遺物県指定
025	妙見宮祭祀遺跡	田口・妙見	祭祀	丘陵	中世	寺社地・良好
026	岡崎遺跡群	田口・岡崎	包蔵地・墳墓	丘陵	弥生	畑・山林・一部消滅
027	地神城跡	田口・岡崎	城跡	丘陵	中世	山林・良好
028	田口遺跡群	田口	包蔵地	丘陵	弥生・古墳	畑・山林・良好

第 1 表 三光村内遺跡一覽 (1)

No.	遺 跡 名	所 在 地	種 別	立 地	時 代	現状及び保存方法
029	仮宮遺跡	田口・仮宮	包蔵地	河岸段丘	弥生・古墳	水田・良好
030	山下経塚	田口・山下	経塚	丘陵	鎌倉	山林・一部消滅
031	コマノツメ遺跡	田口	洞窟	丘陵	旧石器	山林・良好
032	八面山山頂祭祀遺跡	田口・八面山	祭祀	丘陵	古代・中世	寺社地・良好
033	香紫庵遺跡	西秣・香紫庵	包蔵地	河岸段丘	奈良	畑・水田・良好
034	塔ノ熊廃寺	西秣・塔ノ熊	寺院跡	台地	奈良	学校・消滅
	塔ノ熊窯跡	西秣・塔ノ熊	生産	台地	平安	水田・畑・一部消滅
035	ズリヤネ城遺跡	下深水	城跡	台地	室町	工場用地・一部消滅
036	深水邸埋納遺跡	下深水	埋納	丘陵麓	南北朝	住宅・消滅・遺物県指定
037	爰迫遺跡	下深水・爰迫	集落跡	丘陵麓	中世	畑・一部消滅
038	下深水小路遺跡	下深水・小路	集落跡	丘陵	中世	畑・住宅・一部消滅
039	佐知柿木遺跡	佐知・柿木	集落跡	河岸段丘	弥生・古墳	畑・住宅・良好
040	臼木上ノ原遺跡	臼木・上ノ原	墳墓	丘陵	弥生・古墳	山林・畑・一部消滅
041	上ノ原平原遺跡	佐知・平原	集落跡	丘陵	弥生・古墳・中世	畑・道路・一部消滅
042	成恒笹原遺跡	成恒・笹原	祭祀	丘陵	4 C後半～5 C	グラウンド・消滅
043	諫山糸永遺跡	諫山	墳墓・集落跡	台地	弥生・古墳	畑・良好
044	大迫平横穴墓群	田口	横穴墓	丘陵中腹	古墳	山林・良好
045	上秣城跡	上秣・城	城跡	丘陵	中世	山林・良好
046	北平城跡	森山	城跡	丘陵	中世	山林・良好
047	田島崎城跡	成恒・中屋敷	城跡	台地	中世	住宅・畑・一部消滅
048	大日寺跡周辺遺跡	田口・野路平	社寺跡	丘陵	中世	荒廃地・一部消滅
049	辰の口洞穴	田口	祭祀	山林		山林・良好
050	大源寺遺跡	下秣	寺院跡	河岸段丘	中世	道路・消滅
051	瑞雲遺跡	成恒	祭祀	丘陵	古墳・中世	公園・良好
052	土田城跡	土田	城跡	河岸段丘	安土桃山	畑・山林・一部消滅
053	耳とり池	原口	生活遺跡	丘陵	奈良	荒廃地・一部消滅
054	大源寺横穴墓群	下秣	横穴墓	山林	古墳	山林・宅地・一部消滅
055	コウゴウ石遺跡	諫山	祭祀	山林		山林・良好
056	鴨山谷奥遺跡	諫山	祭祀	山林		山林・良好
057	坊住跡	田口・八面山		山林		山林・良好
058	南方奥の院石窟	田口・八面山	祭祀	山林		山林・良好

第2表 三光村内遺跡一覧 (2)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
1	七所神社神木	佐知(西屋敷)	天然記念物	タブの木、樹齢約500年。樹高約15m。 根元直径3.2m。
2	大日寺の馬頭観音	佐知	石造物	大日寺境内の観音像に大日如来坐像を中心に2体。 昔から農家の信仰を集めていた。座高約35cm。
3	木造地藏菩薩立像	佐知	木造物	通称龍興寺の堂宇に安置。かや材の一木造り。室 町末期頃の製作と思われる。像高79cm。
4	七所神社 灯籠	土田(古樋木)	石造物	神殿前にあり。高さ1.8m。「享保三戊戌歳(1718) 十月三日」建立。2基。
	七所神社 庚申塔		石造物	七所神社境内にあり。高さ86cm。表面に「○庚申 塔」の刻銘。「天明五申己十二」(1785)建立。
5	兎 飛び	臼木	名勝	大字臼木山国川の川幅が極端に狭まり奇勝を呈し ている。兎が飛び越えるということからこの名が ついた。
6	道 標	土田	石造物	大字土田から現宇佐市四日市に通じる代官道の分岐 点にあったが、道路工事のため旧街道沿いの現在地 に移された。樋田・口の林・中津・四日市の文字とそ の方向を示す矢印がある。明治9年以降の設置。
7	貴船神社 灯籠	土田(井堀)	石造物	「享保十年甲巳六月吉日」(1725)の刻銘。「享保 十年巳四月」の2基。高さ1.82m。
8	1号厚ヶ瀬トンネル	土田	石造物	旧耶馬溪鉄道の川平第1トンネル。長さ24.4m。 山国川右岸の絶壁に完全な形で残り、今はサイク リング道路として利用されている。完成は大正12年。
	2号厚ヶ瀬トンネル		石造物	1号厚ヶ瀬トンネルの南39mにあり長さ31.7m。
9	臼木雀堂跡	臼木	石造物	昔の葬送の場で現在は、大字臼木の共同墓地となっ ている。墓地内に高さ30cm、横40cmの石塔があり、 正面に波線の菱形に7本縦線の彫刻。右に「雀」 左に「堂」の刻示あり。その後ろに「無縁之塔」 「万治元年」(1658)の刻銘のある高さ90cm、幅70 cmの自然石の石塔あり。
10	貴船社 灯籠	臼木(宮添)	石造物	「正徳二年壬辰歳」(1712)、「享保五庚子歳」(17 20)の2基あり。
	貴船神社 石祠		石造物	「享保十二年」(1727)、「文政七年」(1720)ほか 数基あり。
11	川平間歩の跡	臼木(土田)	史跡	山国川右岸の絶壁にある。元禄2年下毛原台地灌 漑のため、水路を開き樋田に堰堤を築き、山国川 からの取水に成功し、以来300年間下毛原台地を 灌漑した。大正2年耶馬溪鉄道が開通し、トンネ ル(間歩)に並行して走っていた。年を経てトン ネル部分の崩落が著しく、昭和55年新トンネルが 貫通し、旧トンネルは廃止となり今は昔日の面影 を留めている。昭和59年県指定の史跡となる。軌 道敷跡はサイクリング道路として利用されている。

第3表 三光村内文化財一覧 (1)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
12	斧立神社 手水鉢	臼木(斧立)	石造物	江戸中期の作。「奉獻奥平大江戸も世」「文政七歳申二月」(1824)などの記銘。高さ46cm。
	鳥居		石造物	額束は八幡宮「文化二年乙丑歳」(1805)建立。高さ2.53m。神社の創建は神亀2年(725)。
	石祠		石造物	本殿横にあり。高さ1.85m。建立年不詳。
13	鮎帰りの滝	臼木	名勝	山国川の中の玄武岩が奇勝を呈し、その中に高さ3mの瀑状を形成している。溯る鮎がこの瀑に阻まれ、折り返すということからこの名がついた。
14	猪鹿千疋供養塔	臼木(渋見)	石造物	林家墓地にあり。「猪鹿千疋供養塔」の刻名。万延元年(1860)建立。
15	貴船神社 鳥居	小袋(平)	石造物	2基あり。その1基の額束は貴船神社。「享保二年丁酉二月」(1747)建立。高さ2.14m。他の1基は境内地にあり。額束は大明神で奥に石祠を祀る。高さ2.14m。「延宝四年丙辰三月」(1676)建立。
	貴船神社 灯籠		石造物	「宝永五子戊歳」(1708)、「宝永三丙戊歳」(1706)建立。
	貴船神社 石祠		石造物	大明神の鳥居の奥にあり。高さ1.19m。「延宝四年」(1676)建立。
16	七所神社 参官橋	小袋(平)	石造物	昭和17年架設。アーチ型。長さ5.25m、幅3.48m、川底より高さ2.8m。
	七所神社 鳥居		石造物	額束は七所宮。高さ3.08m。「正徳乙未三月初六日」(1715)建立。
17	金比羅神社 鳥居	小袋(西平)	石造物	額束は金毘羅宮。高さ2.54m。「慶應四年戊辰三月」建立。
	金比羅神社 石祠		石造物	高さ98cm。建立年月不詳。
18	原口キリシタン墓	原口	石造物	内橋家の墓地内にある2基。中央に五輪塔を配し並んでいる。元禄二年二月の刻銘あり。
19	加勢貴船神社の庚申塔	諫山	石造物	東側○奉庚申供 高さ90cm、幅30cm。 西側○奉庚申塔 高さ84cm、幅29cm。 右側 天保十一□□七月吉日
	加勢の庚申塔		石造物	「元禄八年十二月二日」の銘。高さ100cm、幅15cm。
20	長仁寺ヤヅリ観音	諫山	石造物	平家の落人が陰刻したと言われている。高さ110cm、幅55cm。
21	長仁寺銅造如来坐像		銅造物	木造宣字形台座に坐す。中国元・清時代の作と推定。像高50cm。

第4表 三光村内文化財一覧 (2)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
21	因教寺木造阿弥陀如来像	諫山	木造物	鎌倉様式の寄木造りの漆箔像。玉眼は水晶を入れる。像高約40cm。
22	石原貴船社庚申塔	諫山	石造物	左 高さ60cm、幅37cm。右 高75cm、幅60cm。宝暦十一年（1761）辛巳四月吉日の刻あり。
	石原貴船社鳥居		石造物	「延宝四年丙辰」（1676）建立。高さ2.9m。
23	成恒文書	成恒	文書	文書12巻・系図1巻。元弘3年（1333）から慶長11年（1606）まで274年間122点。内訳は鎌倉1点・南北朝4点・室町113点・桃山2点・江戸2点。
	キンモクセイ		天然記念物	樹高約10m・胸高直径80cm・枝下3m・枝の広がり8m。村指定。
	サザンカ		天然記念物	樹高約12m。地上20cmの幹の径は55cm。地上50cm～1m付近で数本の太枝に分かれ上部2m.3mの所に連理がある。白花の一重。村指定。
24	善勝院仏像3軀	成恒	石造物	造阿弥陀如来坐像。ヒノキ寄木造り。高さ43cm。木造観音菩薩立像。高さ37.5cm。石像薬師如来像。高さ45cm。
	善勝院手水鉢		石造物	「天保七年」（1836）。「丙甲七月吉日渡辺茂平」。長64cm×幅37cm×高35cm。
	末広八幡宮鳥居		石造物	「延宝四年丙辰十一月穀旦」。高3.5m。幅2.7m。
	末広八幡宮境内石塔群		石造物	庚申塔「元和八年」建立他4基。その他無縫塔・灯籠10基等あり。
25	成恒越中守の墓	成恒	石造物	「思□安信大居士」 「越中守矩種・文禄四年四月四日（1595） 高90cm・幅32cm。
26	薬師堂境内石塔群	田口（岡崎）	石造物	宝篋印塔・石幢・宝塔・五輪塔等20基余あり。宝篋印塔は総高101.5cm。南北朝時代の造立と推定。
	薬師堂木造薬師如来坐像		木造物	かや材の一木造の平安仏。高84.5cm。像裏に墨書があるが腐食著しい。
	岡崎古井戸		石造物	古くよりあった岡崎唯一の井戸。地区民の飲料生活用水に使われていた。水量年中同じ。
27	岡崎貴船神社庚申塔	田口		城山（じょうやま）に在る自然石4基。
	岡崎貴船神社鳥居・灯籠		石造物	「元禄五年□甲八月吉日」（1692）
28	ナルタケの石棒	田口	石造物	弘法堂内にあり。
29	西ノ宮南側参道鳥居	田口	石造物	大正5年仮宮の八幡神社鳥居移築。「元禄六癸酉年」（1693）。「三月一有五日」。高さ2.8m。
30	光永寺木造比丘坐像	田口	木造物	カヤ材素木一木造り。木喰上人の作か。像高25.5cm。
	光永寺木造毘沙門天立像		木造物	ヒノキ材素木一木造り。南北朝末の作と推定。像高40cm。

第5表 三光村内文化財一覧 (3)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
30	光永寺木造大日如来坐像	田口	木造物	カヤ材素木一木造り。金剛界大日如来の小像である。像高33cm。膝張19.5cm。最大奥9cm。
31	櫟木家 陣道面	田口	木造物	クス材。漆塗。面長31.5cm。面幅27.2cm。
	八面山 峰入巡拝次第記		文書	縦21.3cm。横676cm。明治元年頃の書。治部郷智弁法印（櫟木義男）。
	八面山縁起		文書	天和二年（1682）宇佐宮の社僧・恵梅法師の編集。
	櫛野文書		文書	鎌倉時代から天正時代にかけての中世文書5点と荘園絵図断簡3枚。
32	黒豆御前石祠	田口（三田）	石造物	鳥居本池にあり。年代不詳。和気清磨に老女が黒豆を捧げた。この老女を黒豆御前として祀ったという。総高80cm。
33	猪山宮鳥居	田口（三田）	石造物	「元禄十三年」（1700）建立。
	猪山宮宝塔		石造物	三重の基礎の上に首部のある塔身を立て上に照屋根の笠を置く。塔身に猪山八幡神社の刻銘。高さ238.5cm。
34	蟹大神	田口（野路平）	石造物	自然石に蟹大神の刻銘。高さ100cm。左右に石祠・灯籠あり。
35	大日寺跡石造物群	田口（野路平）	石造物	普賢菩薩騎象像他石塔3（内庚申塔1）泉水池周辺に仏像・宝篋印塔・石塔・手水鉢等12基点在。
	神護寺境内宝篋印塔		石造物	南北朝から室町時代初期の造立と推定。
	光明真言塔		石造物	碑面上部円形に光明真言と陰刻。元禄15年（1702）の造立。高さ136cm。
36	岩屋堂木造菩薩立像	田口	木造物	カヤ材の一木造立像。風化が著しい。平安前期様式。高さ98.4cm。
37	箭山神社角塔婆	田口（八面山）	石造物	箭山神社の入口にある。本県最古のもの。徳治三年（1308）の刻銘あり。高さ116cm。碑身に多数の刻銘と墨書があり。県指定。
38	古池（大池）充込水路	田口（八面山）		八面山九合目の新池から標高差約40mの古池に充て込む急斜面に築造した水路（1km余）とその流末の間歩。間歩長さ22.8m。高さ1.2m。幅1.0m。
39	田口のイチイガシ林	田口（八面山）	天然記念物	坊住跡に群生するイチイガシ林。県指定。
40	妙見宮木造仏	田口（金色）	木造物	神像1・仏像2・何れも風化著しい。塑像の心木は保存状態良好。
41	北平三重の塔	森山（北平）	石造物	薄い屋根の三重の塔。最下部の塔身二面に刻銘あり。他に倒伏した同型の塔あり。総高285.3cm。
42	妙法寺跡墓地石塔群	森山（堂山）	石造物	妙法寺跡の墓地にある。正面に開山を中心に4基。右側に6基。左側に5基。宝篋印塔・五輪塔・無縫塔等あり。

第6表 三光村文化財一覧 (4)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
43	大源寺キリシタン墓	下秣(大源寺)	石造物	宝塔の一種。基礎に十字の刻印。建立年不詳。
44	大源寺木造観音菩薩立像	下秣(大源寺)	木造物	カヤ材一木づくり。両手両足は別木。蓮華座に立つ。高さ58cm。年代不詳。
45	金石 板碑	下秣(金石)	石造物	3基中の2基は三連碑。1基の下部に「弘成敬白申四年三月十三日」の刻銘あり。大永4年(1524)造立の庚申塔と考えられる。
46	翁神社	下秣(築城)	社寺	神殿総ケヤキ造り。間口2.6m。奥行1.75m。「享保十四年庚戌」(1730)の棟札あり。拝殿総ケヤキ造り。7寸柱。間口3間6m。奥行2間5m。周りに1mの廊下がある。上り天井。中央に竜の彫刻がある。庇は二重の扇垂木。天明八年(1788)の棟札がある。
	灯笼		石造物	卍灯笼1基。「宝暦十二年(1762)二月、邑中勸化願」の刻銘あり。高さ132cm。寛文十二年庚申年(1672)灯笼1対。高さ165cm。文久二歳戊(1882)「江戸芝増上寺山内宝松院観音」寄進灯笼1対。高さ175cm。
	鳥居		石造物	「元禄四辛年」(1691)建立。額束「翁大明神、貴船大明神宮」高さ3.4m。
47	清紫庵石祠	下秣(清紫庵)	石造物	石祠2。東側稲荷宮。高さ109cm。西側水神宮。高さ111cm。宝暦十一年(1761)の倒れた鳥居と「弁財天」の額束、宝塔の塔身等あり。
48	西願寺一字一石塔	下秣(芝真)	石造物	「大乘妙典一字一石塔」「明和九歳(1772)龍次壬辰・・・」の刻銘あり。高さ130cm。
	西願寺マキ		天然記念物	樹高約14m。直径0.69m。樹齢不詳。
49	山ノ神 石祠	下秣(山ノ神)	石造物	前扉は引き戸式。高さ87cm。前の角柱灯笼に「明和九壬辰(1772)初秋」の刻銘あり。
50	金現寄四国石仏群	上秣(金現)	石造物	長さ約30mの半円形の洞窟中段に58体の石仏が並ぶ。蓮華座とも像高約50cm。
	金現平安仏		木造物	虫と風化で像容・材質とも明確でない。 1. 胴体のみ、くり抜き、高さ115cm。 2. 阿弥陀如来、頭部、上肢は別木で右肢欠。 3. 胴体は縦割りくり抜き、高さ142cm。 4. 天部、上肢別木、左肢右肢先欠。高さ78cm。 5. 上半身、上肢欠損、高さ30cm。
51	上秣神社手水鉢	上秣(城)	石造物	文政二巳卯年(1819)。
	上秣神社石祠		石造物	「明和九壬辰年(1772)二月」建立。石室は一石のくり抜き。柱・桁・屋根下模様は浮き彫りで朱塗り。高さ134cm。
	秣城跡		史跡	現在の上秣神社境内一帯。天正年間の堀や土塁が残る。

第7表 三光村文化財一覧 (5)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
52	普賢寺木造釈迦如来坐像	下秣(城山)	木造物	寄木造り。江戸前期の製作。像高29.5cm。
53	田ノ口 角塔	上秣(田ノ口)	石造物	寄せ棟式笠・四角の塔身・基礎が一石。塔身の四方に5字ずつ梵字が墨書されている。高さ57cm。建立年不詳。
54	上秣庚申塔	上秣(田ノ口)	石造物	屋根のある青面金剛像。高さ120cm。「干時明和九辰年(1772)・・・」の刻銘あり。
55	長谷川家キリシタン墓	上秣(灰床)	石造物	十字のある自然石と斗栱墓各1基。
56	犬丸どんの墓	上秣(湯桶)	石造物	犬丸城主越中守藤原清俊の墓。無銘。高さ113cm。
57	道田寺堂石塔群	西秣(尾下)	石造物	圃場整備で現在地に移転。両面板碑(47cm)角塔婆(40cm)一石五輪塔(52cm)など30基あまりあるが風化が著しい。
58	松田家墓地斗栱墓	西秣(尾下)	石造物	墓地内に8基ある。
	六地藏		石造物	宝暦十二(1762)・安永七戌(1778)・安〇四未、外の三体は刻字の跡はあるが判読不能。
59	蛭兒神	西秣(池部)	石造物	高さ100cmの三角錐自然石、正面に「蛭兒神」、一面に「文政十年丁亥(1827)開眼・・・」と刻銘あり。
60	井戸がわ	西秣(久保庵)	石造物	稲用家で永年使用した丸型井戸側。高さ34~40cm、内径62~64cm、周250cm、厚さ約8cm。
61	泰源寺橋	西秣	石造物	大正中期白木原儀作の建造。幅2m、長さ11.5m、径間9.5m、橋厚0.42m、アーチ幅が広い。村指定。
62	泰源寺観音菩薩立像	西秣(政所)	木造物	ヒノキ材の漆箔像。両手足先は別材。額の金属製の宝冠等は、後に補ったもの。南北朝末の作といわれている。高さ65cm。
	泰源寺無縫塔		石造物	中興開山碧外岳大和尚貞享元甲子年(1684)外歴代住職並びに関係者の無縫塔9基。
	泰源寺墓地		石造物	大庄屋深水家と宮司の後裔稲用家の墓地、墓群の中に寛政12年(1800)以前の墓63基あり。
	地藏尊		石造物	「元禄十二年巳卯年(1699)・・・」の刻銘のある石室に安置された地藏像。高さ56cm。
63	秣小学校モッコク	西秣(塔ノ熊)	天然記念物	樹高約6m、直径0.44m、樹齢不詳。村木。
	秣小学校板碑		石造物	塔ノ熊廃寺にあったものを現在地に移転。梵字(阿弥陀如来)の刻あり。高さ94cm。年代不詳。
64	香紫庵宝塔	西秣(香紫庵)	石造物	塔身四方に種子の刻あり。室町から桃山時代の建立と推定。村指定。
65	深水家宝塔(石室仏)	西秣(北畑)	石造物	塔身に仏の座像を刻んだ均整のとれた宝塔。高さ77cm。年代不詳。前後に軒の出た屋根型一石の石室に2体の仏の座像を刻む。間口80cm、奥行30cm、高さ70cm。

第8表 三光村文化財一覧 (6)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
66	西秣神社鳥居	西秣(大戸)	石造物	寛文十一亥年(1671)建立、額束「貴船社」、「前帯細流後有沈水可謂神德添運之靈山也」の刻銘あり。高さ3.64m。
	大戸池石祠		石造物	石祠内部に大戸池建造に関する由来の刻銘あり。高さ137cm。文化10年(1813)建立。
67	根比角塔婆	西秣(長谷)	石造物	総高86cmと67cmの2基。
68	三界上人供養塔	西秣(長谷)	石造物	三界上人入定の塚の前大石の上に建てられた三重の石塔。総高124cm。南北朝時代の作と推定される。
69	小川内池石祠	西秣(長谷)	石造物	水神石祠「小笠原信濃守様御代此池出来。寛文六年午(1666)二月中旬」の銘あり。総高80cm。
70	中尾家 鍔絵	西秣(長谷)		大正末期建築当時のもので、現存する村内唯一の鍔絵。
71	不動堂庚申塔	西秣(長谷)	石造物	堂内に宝暦七年(1757)の猿田彦刻像塔。堂外に万治三年(1660)の自然石。「奉建立庚申之石塔」外数基。
72	長谷寺奥の院	西秣(長谷)	木造物	高さ約4.5mの支柱に支えられた間口5m、奥行5.3mの懸造。堂内に十一面観音・不動明王・毘沙門天を安置。
	長谷寺十一面観音坐像		木造物	楠材一木造で十一面部分は欠失。像高31cmで室町時代の作と推定される。奥の院に安置。
	長谷寺不動明王立像		木造物	楠材一木造で像高91cm。室町時代の作と推定される。奥の院に安置。
	長谷寺毘沙門天立像		木造物	楠材一木造で像高90.5cm。室町時代の作と推定される。奥の院に安置。
	大乘妙典普門品一字一石塔		石造物	「大乘妙典普門品一字一石塔。明和八辛卯年(1771)二月八日」 総高108cm。
	長谷寺のナギ		天然記念物	樹高約20m。胸高直径0.8m。根張り約9m。雌株の大樹。
	長谷寺銅造観音菩薩立像		銅造物	台座框に35字の銘文。 銘文訓読「壬の歳は摂提格に次る林鐘捨五日、周防凡直百背の女。汝背兒。命過ぎにし為。請願により観世音菩薩を作り奉る」総高39.4cm。702年の作と考えられる。
	長谷寺境内林		天然記念物	長谷寺本堂から奥の院に通ずる参道右側のコジイの巨木群を中心とする自然林。県指定。
長谷寺一石五輪塔	石造物	石垣の中に組み込まれており、鎌倉末から南北朝期にかけての作と推定される秀作。総高75cm。村指定。		

第9表 三光村文化財一覧 (7)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
72	長谷寺国東塔	西秣(長谷)	石造物	室町末から桃山時代に造立されたと推定される村内唯一の国東塔。総高134.5cm。村指定。
	熊野権現宝塔		石造物	南北朝初期貞和4年(1348)の作で、相輪を欠失しているのが惜まれる秀作。総高210.5cm。村指定。
73	堀田平石塔群	西秣(長谷)	史跡	宝塔・五輪塔・板碑・角塔婆など20基ちかい石塔群。南北朝末の作と推定され、逆修塔との伝承あり。村指定史跡。
74	八十八ヶ所石仏群	西秣(長谷)	石造物	奥の院続きの山、岩場づたいに約2kmにわたり八十八ヶ所の石仏が70体あまり残されている。江戸末期の造立と推定される。
75	泉墓地石塔群	下深水(泉)	石造物	五輪塔50基あまりで、異形一石五輪塔も数基ある。室町以降のものと推定される。
76	雷神社 鳥居	下深水	石造物	額東「八大龍王宮」。柱「寛文二壬寅(1662)三月吉日」とある。高さ3.4m。
77	正法石塔群	下深水	石造物	総高81cmの大永6年(1526)銘の宝塔のほか南北朝から室町時代にかけての宝塔3基。五輪塔20数基あり。
78	北谷板碑	下深水(北谷)	石造物	墨書銘板碑2基。1号は主尊キリク(阿弥陀如来): 願文光明真言。地上高116cm。 2号は主尊バク(釈迦如来): 永享四年(1432)の造立と推定。地上高108cm。
79	伝聖寿寺本尊千手観音像	下深水	木造物	桧材一木造42手。頭上脇面九面を欠失。像高52cm。室町時代初頭の造立と推定。深水明氏蔵。
80	中居大山祇神社のスキ	下深水	天然記念物	樹高30m。胸高直径1.5m。根回り6.6mの神木。
81	八徳寺木造天部像	上深水	木造物	カヤの一木造。天部像2軀。像高77cmと82.3cm。
82	大山祇神社 石灯籠	上深水	石造物	2基。基礎は四隅に獅子を配し、笠の上にも獅子を置く。「享保卅(1735)乙卯十二月吉鳥寄進」総高190cm。
	大山祇神社 狛犬		石造物	銘「享保卅(1735)乙卯年」「元文五甲(1740)三月吉日」のほか無銘一對あり。
	大山祇神社 力石		石造物	直径40~50cmの球にちかい自然石三個。
83	深泉寺墓地石塔群	上深水	石造物	元和4年(1618)銘のものを含め宝篋印塔9基。累代方丈の無縫塔26基のほか宝塔、五輪塔など約80基あり。
	深泉寺石造延命地藏尊		石造物	深泉寺8世久屋永昌大和尚(寛文3寂-1663)の開眼によるものと伝えられる。諸病に靈驗あらたかで酒かけ地藏ともいわれている。

第10表 三光村文化財一覧 (8)

番号	文化財名称	所在地	種類	備考
83	深泉寺結界石	上深水	石造物	「不許葦酒入山門 天保十五甲辰（1344）七月當山十八世造立之」総高158cm。
	深泉寺大乘妙典千部塔		石造物	「奉読誦大乘妙典千部塔 宝曆七丁丑天（1757）六月九日雲外」総高140cm。
	深泉寺経王一字一石塔		石造物	「経王一字一石塔。文化二乙丑（1805）三月日藤氏深水友右衛門直宗七十七老敬拜書」とある。総高170cm。
	深泉寺のシダレザクラ		天然記念物	樹高約8m。胸高直径0.6m。枝の広がり東西16m・南北12mのエゾヒガンのベニシダレ。
84	咄の石塔	上深水	石造物	石塔2基。六地藏石幢。総高70cm。南無阿弥陀仏六字の名号塔。総高120cm。
85	廻国塔	上深水	石造物	銘「奉納大乘妙典日本廻国一字一塔」。弘化3午歳（1846）銘の六十六部供養塔。総高137cm。

第11表 三光村文化財一覧 (9)



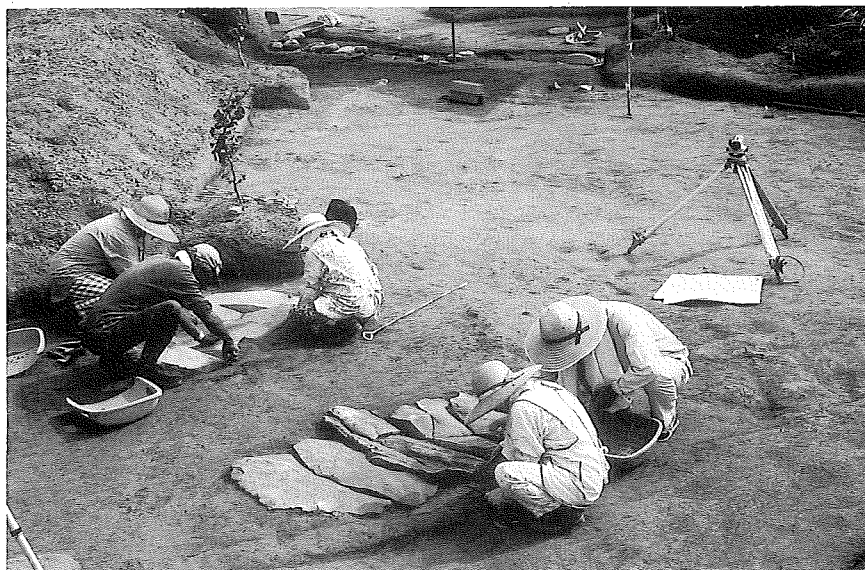
土田若林地区 調査前



土田若林地区
トレンチ調査風景



白木上ノ原遺跡
遺構検出状況



臼木上ノ原遺跡 調査風景



臼木上ノ原遺跡
遺構検出状況



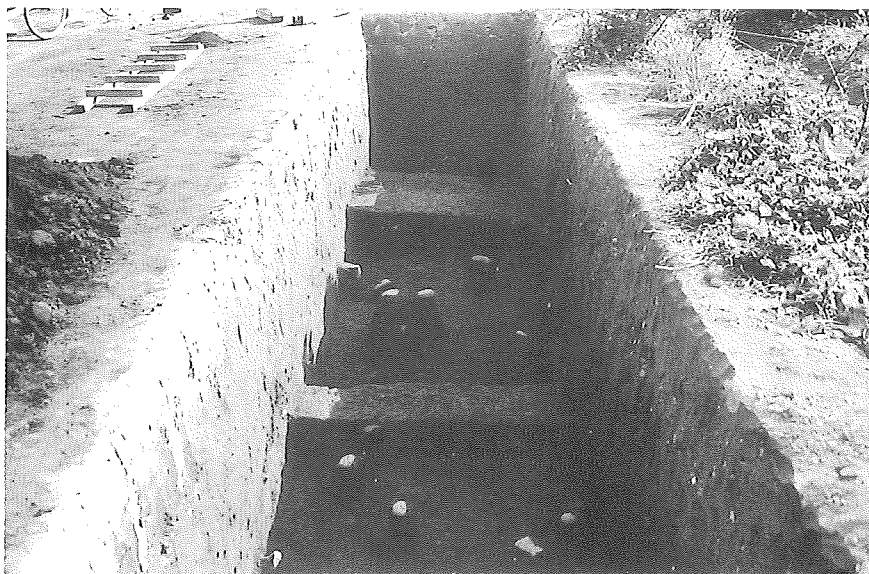
臼木上ノ原遺跡 第1号墓



臼木上ノ原遺跡
落とし穴状遺構



佐知柿木遺跡 調査風景



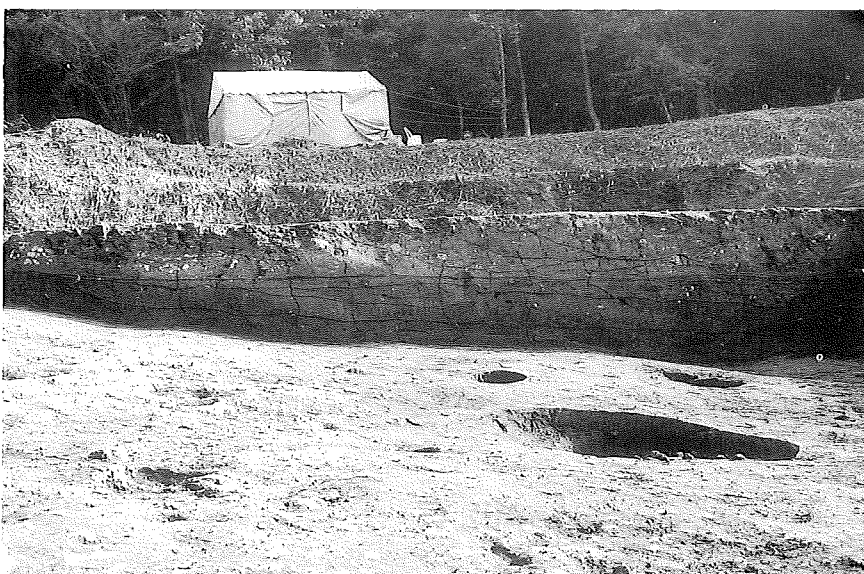
佐知柿木遺跡
トレンチ調査状況



佐知柿木遺跡
トレンチ調査状況



下深水小路遺跡 調査風景



下深水小路遺跡 調査状況



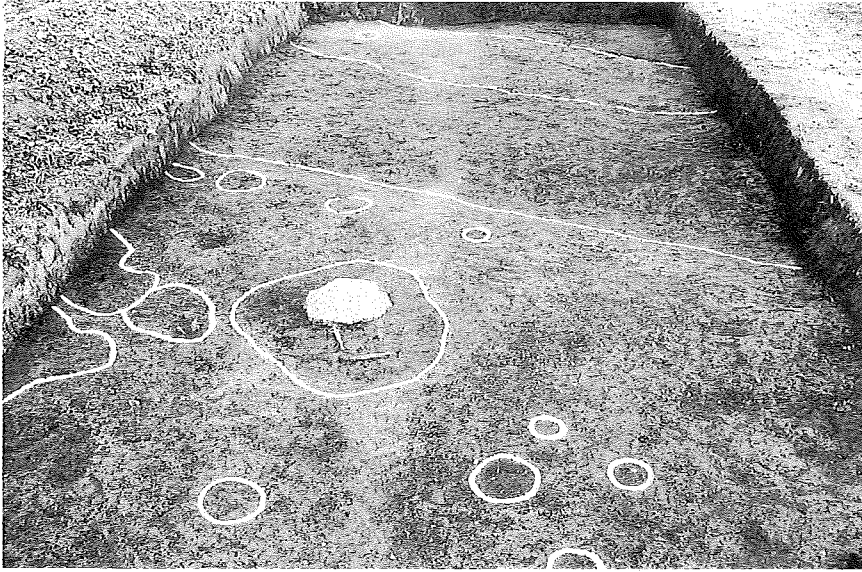
下深水小路遺跡
石垣検出状況



原口遺跡群
トレンチ調査状況



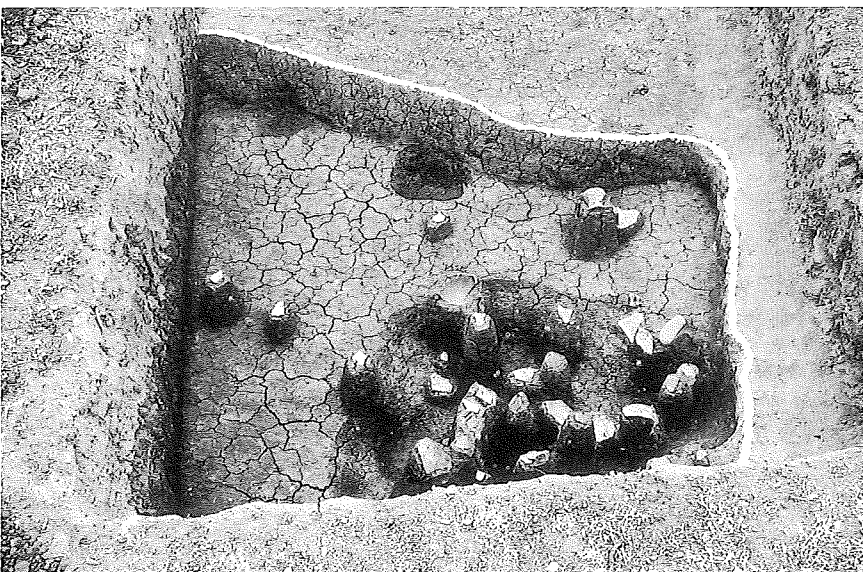
原口遺跡群
トレンチ調査状況



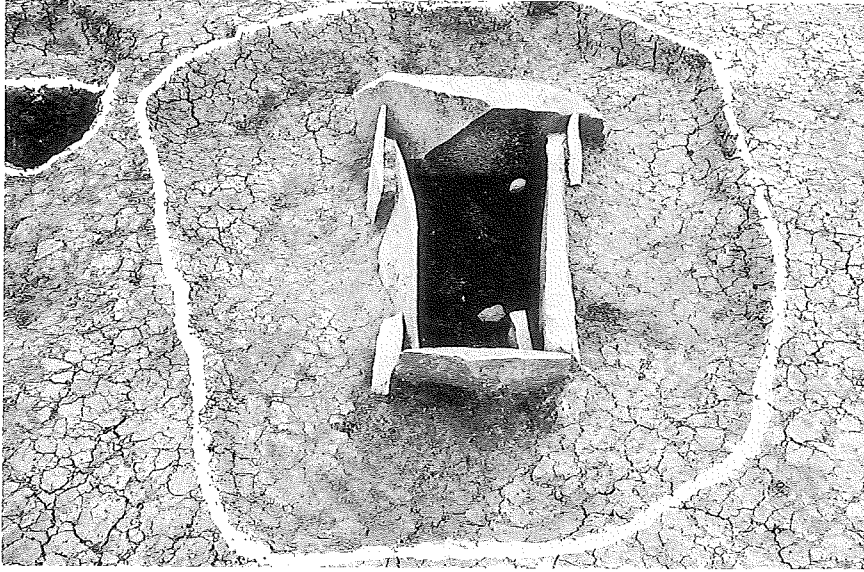
諫山糸永遺跡
遺構検出状況



諫山糸永遺跡
トレンチ調査状況



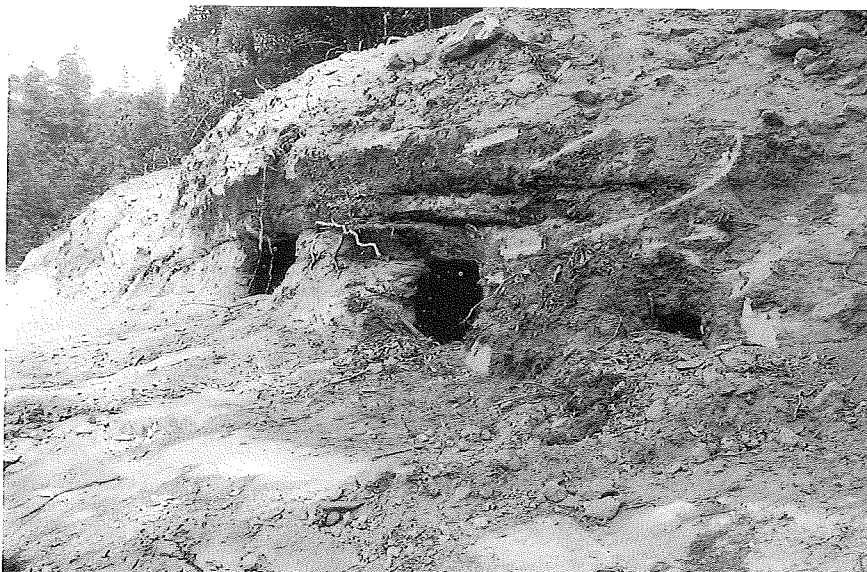
諫山糸永遺跡
遺構調査状況



諫山糸永遺跡 第1号墓



大源寺横穴墓群 全景



大源寺横穴墓群 検出状況



佐知久保畑遺跡
調査前風景



佐知久保畑遺跡
遺構検出状況



深秣地区 トレンチ調査状況



成恒地区 トレンチ調査状況



真坂地区 トレンチ調査状況



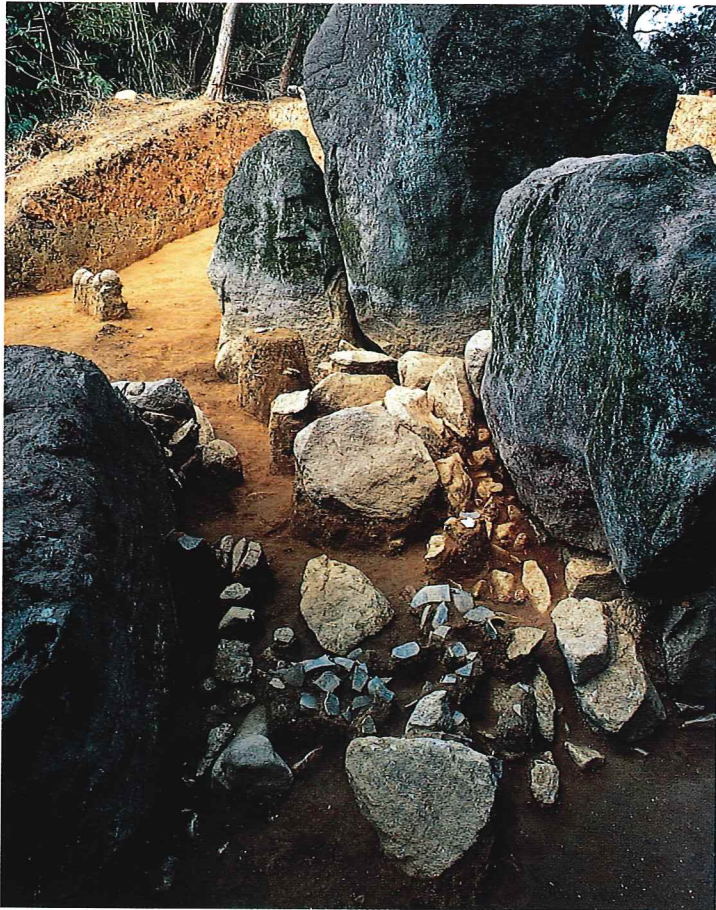
佐知遺跡群
トレンチ調査状況



瑞雲遺跡



瑞雲遺跡



瑞雲遺跡



瑞雲遺跡



白木古墳 3号墳



白木古墳 3号墳



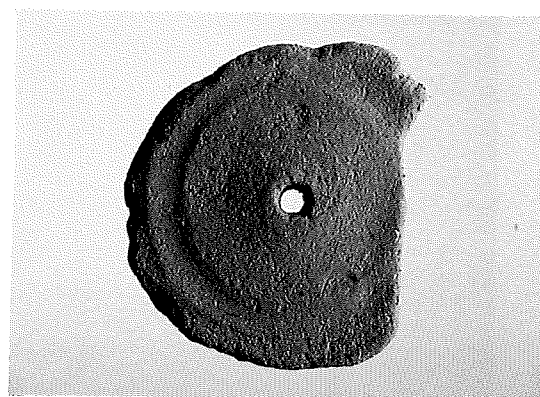
瑞雲遺跡



瑞雲遺跡



瑞雲遺跡



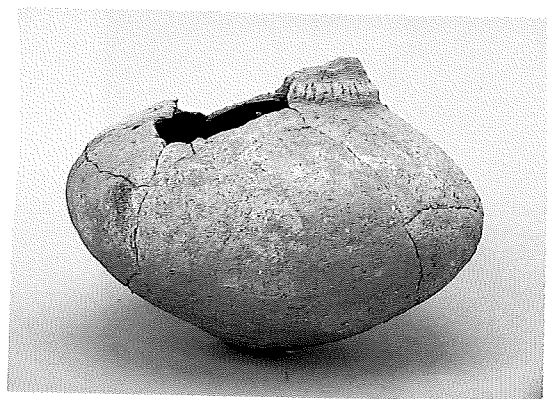
瑞雲遺跡



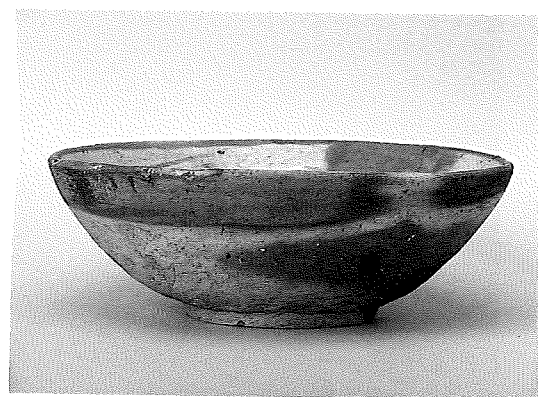
瑞雲遺跡



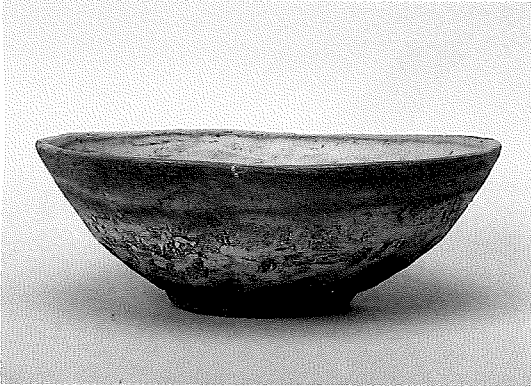
臼木上ノ原遺跡



臼木上ノ原遺跡



佐知柿木遺跡



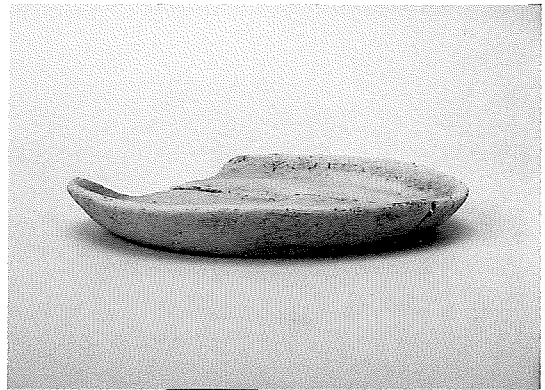
佐知柿木遺跡



佐知柿木遺跡



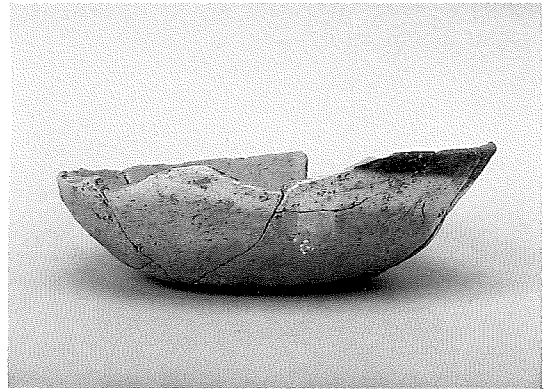
佐知柿木遺跡



佐知柿木遺跡



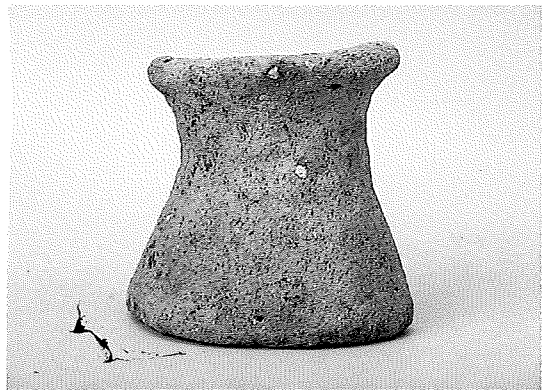
佐知柿木遺跡



下深水小路遺跡



下深水小路遺跡



諫山糸永遺跡



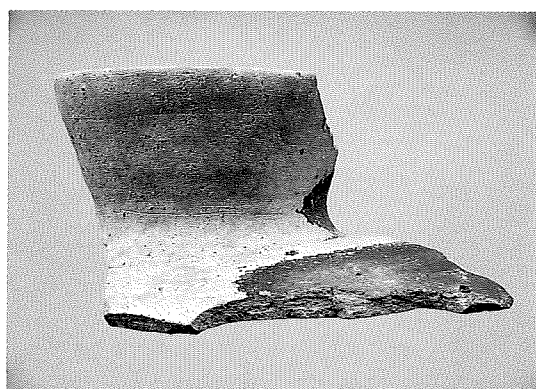
諫山糸永遺跡



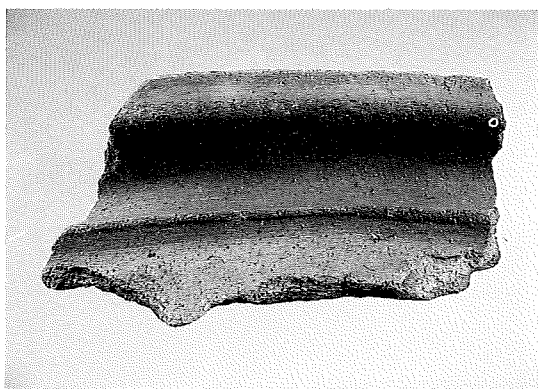
諫山糸永遺跡



諫山糸永遺跡



大源寺横穴墓群



佐知久保畑遺跡



厚ヶ瀬トンネル



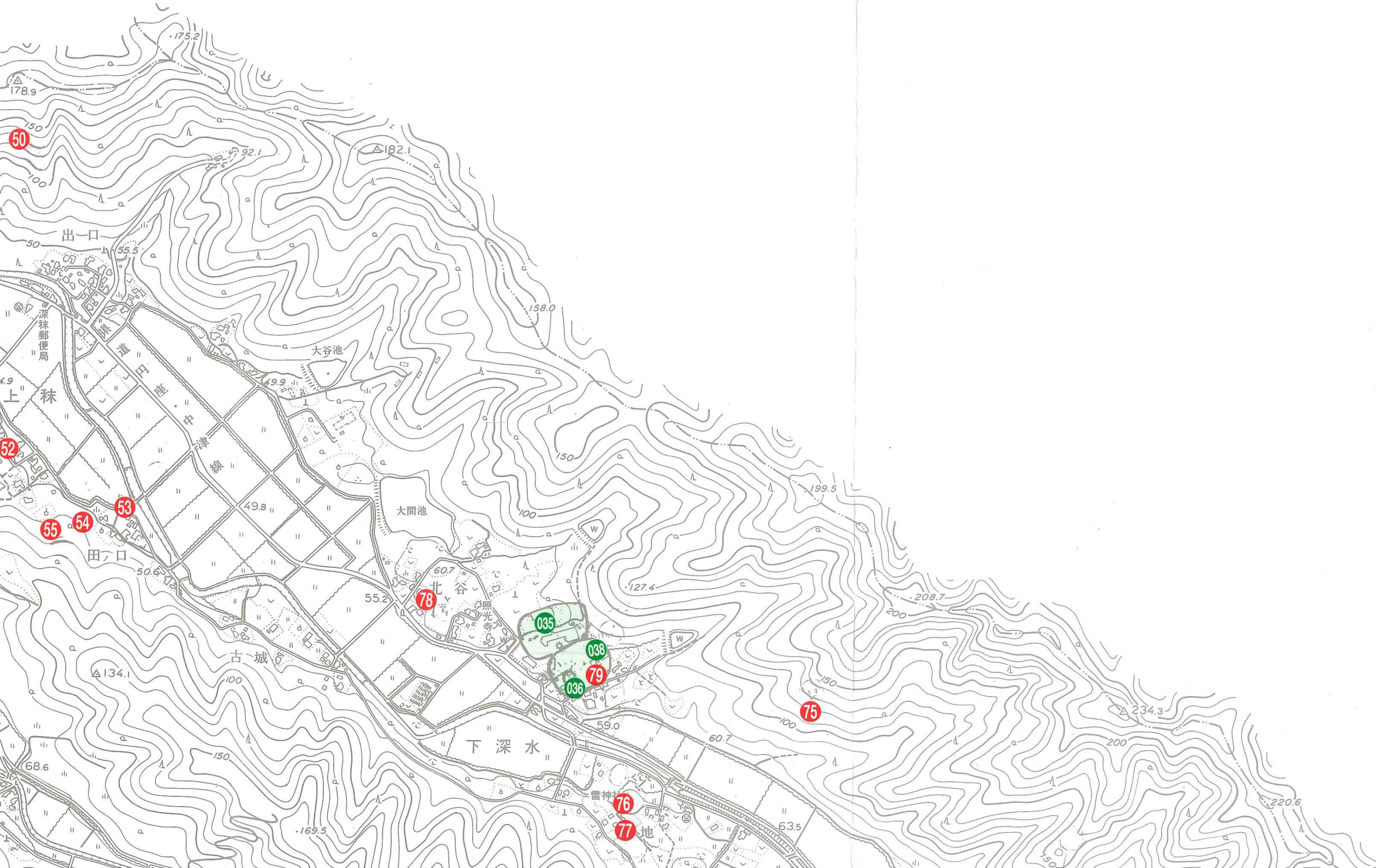
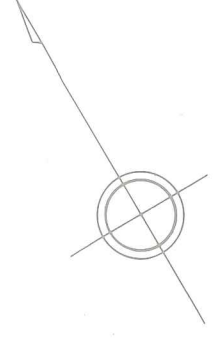
泰源寺橋



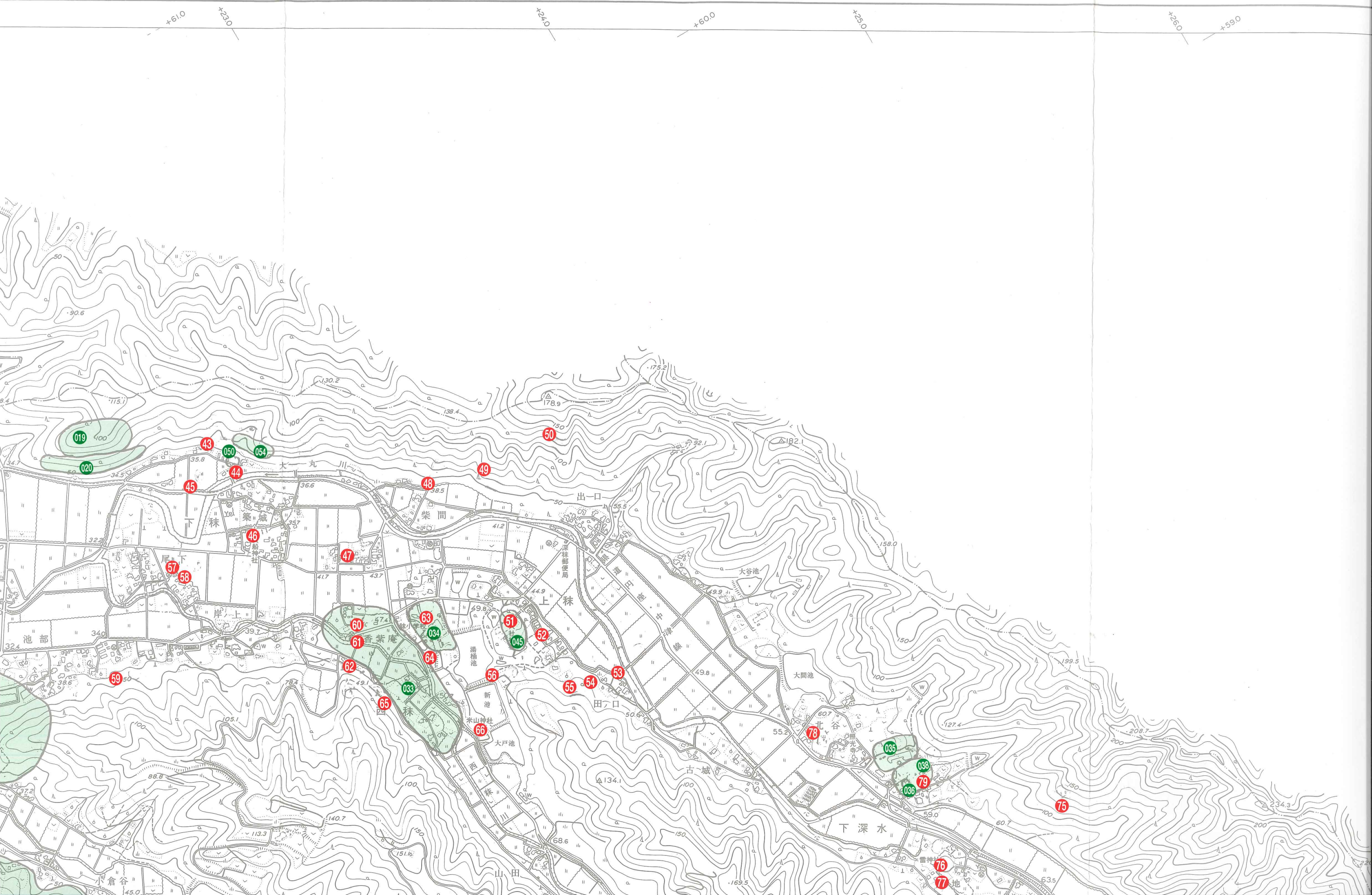
八十八ヶ所石仏群

+24.0 +60.0 +25.0 +26.0 +59.0 +27.0 +58.0 +28.0

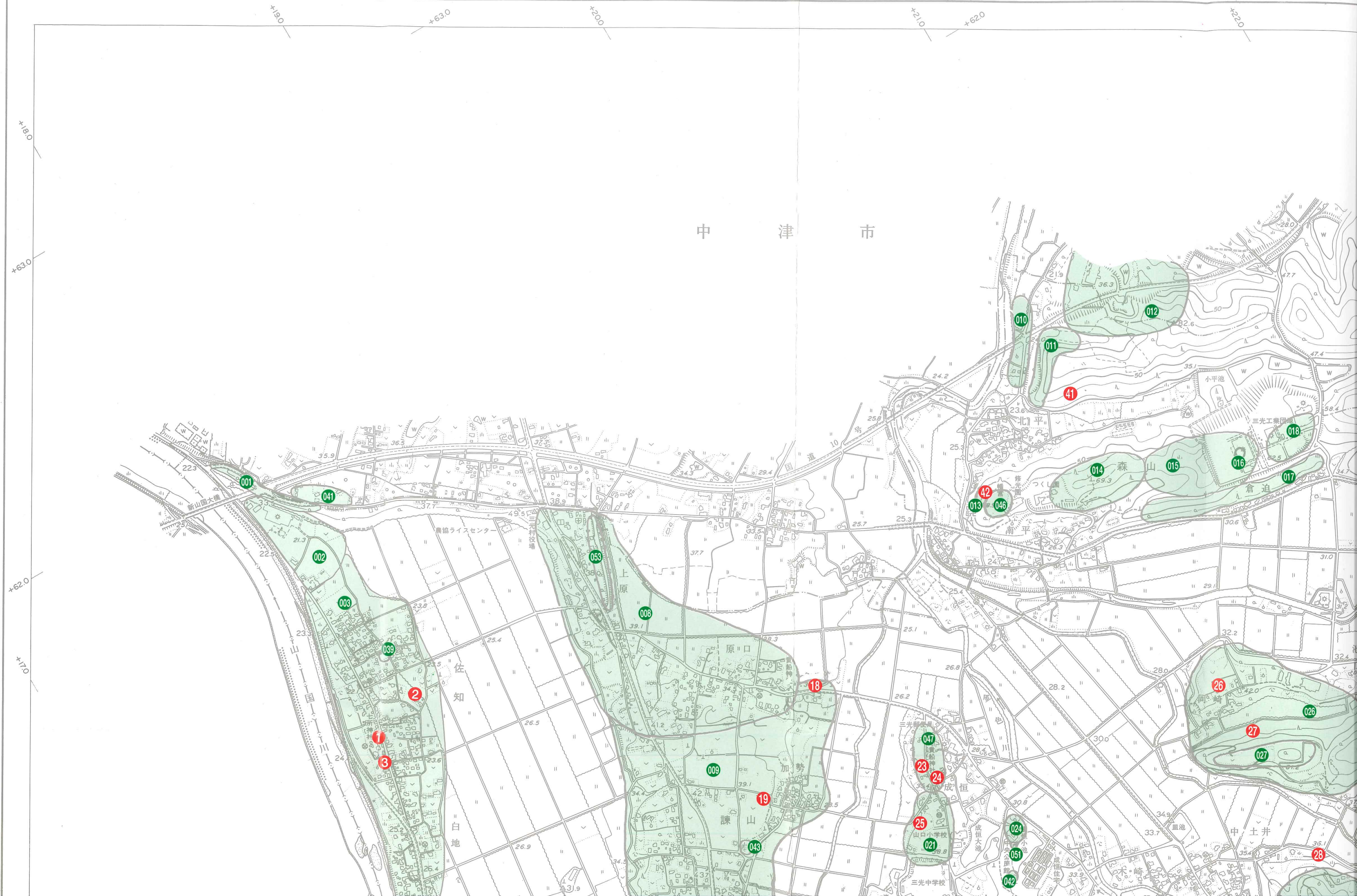
+28.0
+57.0
+56.0
+27.0

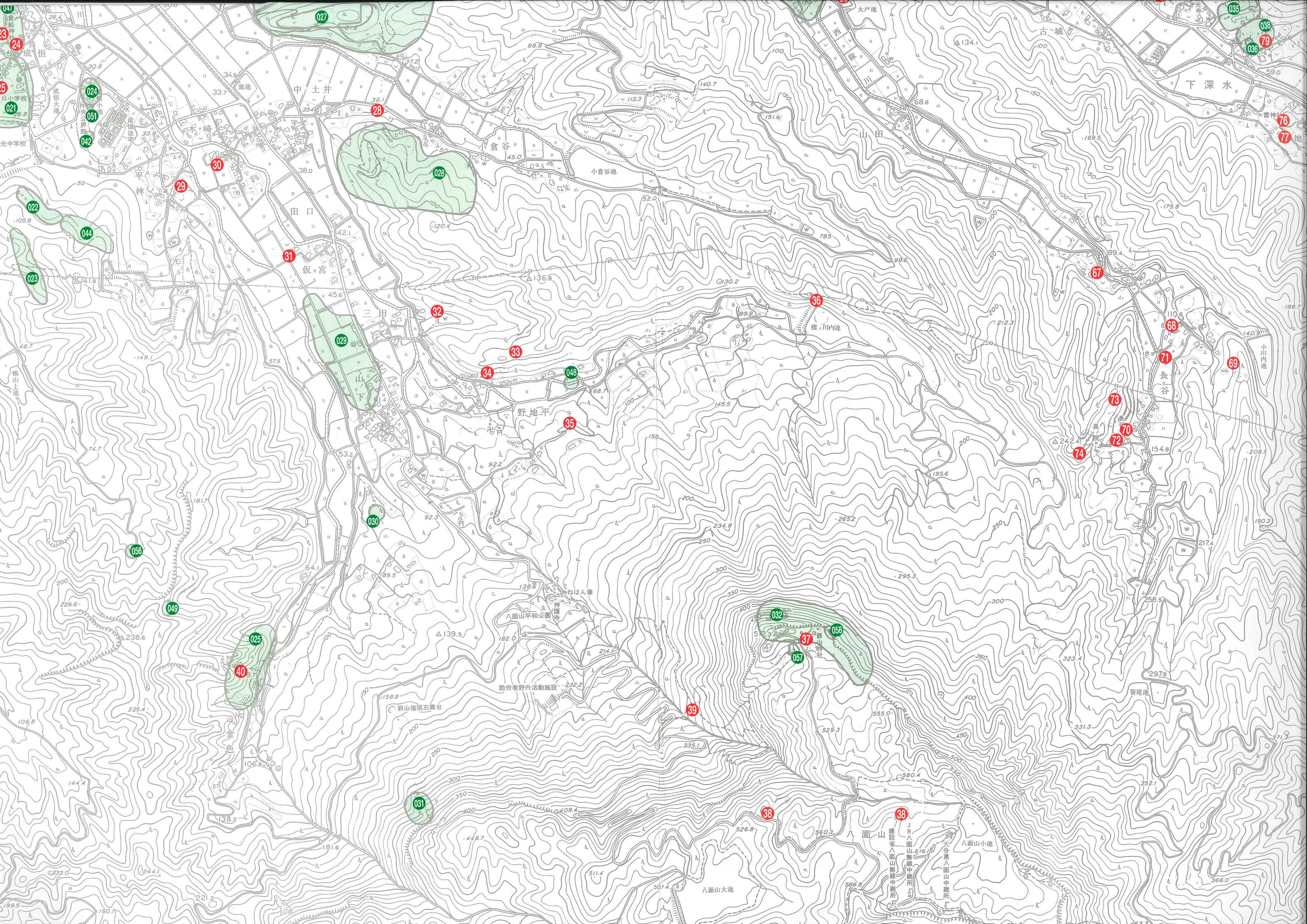


三光村全図



中津市





04
23
24
5
021
024
051
042

022
044
023

056
049

025
40
031

027
28
028

29
30
31
029

32
33
34
048
35

030
36
37
058
057

38
39
38

134.1
100
150
140.7
151.6
113.3
88.8
150

136.8
130.2
99.9
145.5
199.9
150

234.9
250
300
350
400
529.3
555.0
526.8
560.3

529.3
555.0
580.4
588.8
507.4
511.4

507.4
511.4
507.4
511.4

134.1
100
150
140.7
151.6
113.3
88.8
150

136.8
130.2
99.9
145.5
199.9
150

234.9
250
300
350
400
529.3
555.0
526.8
560.3

529.3
555.0
580.4
588.8
507.4
511.4

507.4
511.4
507.4
511.4

134.1
100
150
140.7
151.6
113.3
88.8
150

136.8
130.2
99.9
145.5
199.9
150

234.9
250
300
350
400
529.3
555.0
526.8
560.3

529.3
555.0
580.4
588.8
507.4
511.4

507.4
511.4
507.4
511.4

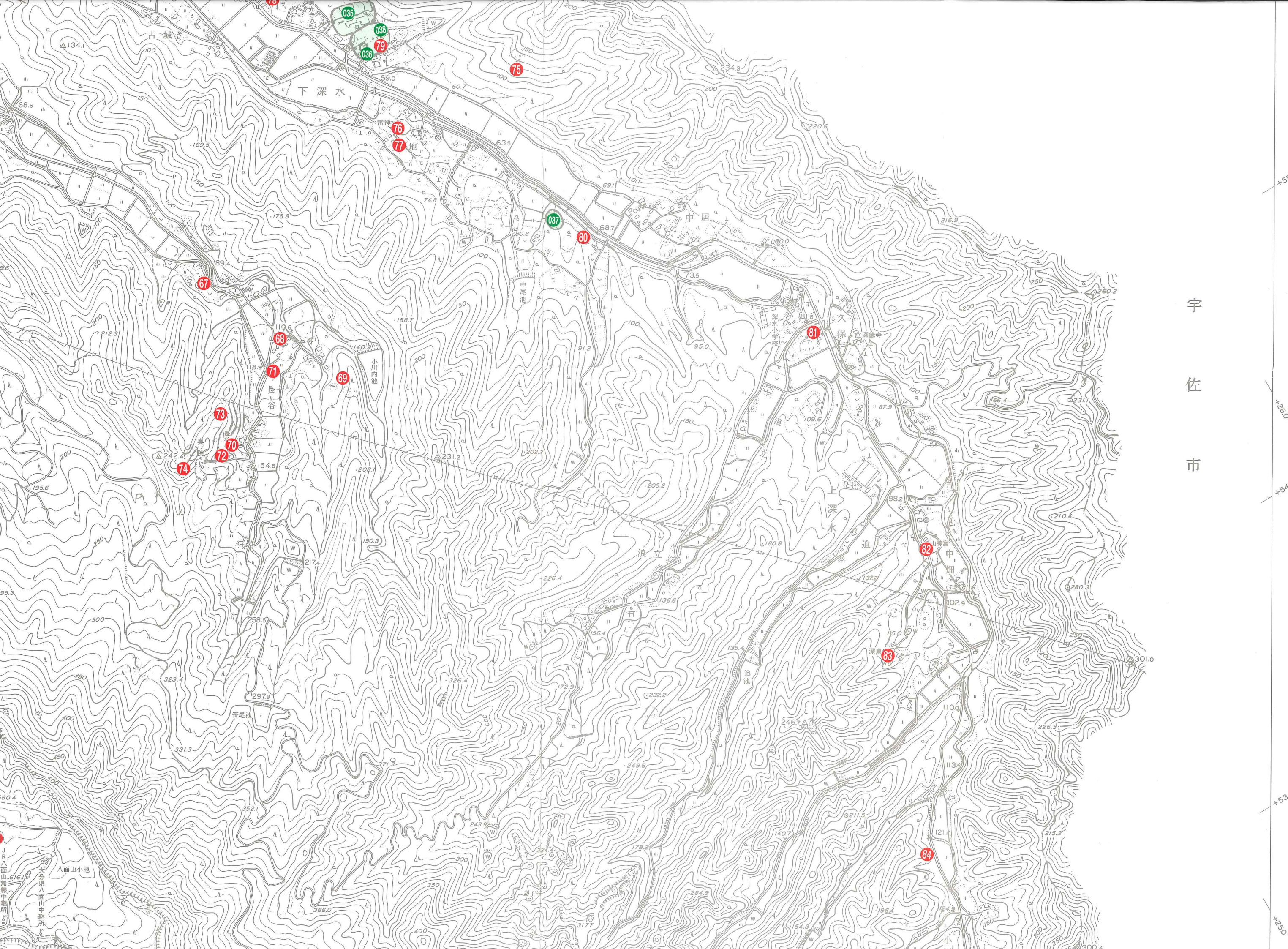
035
038
79
036

67
68
71
69

73
70
72
74

75
76
77

78



宇
佐
市

JR 八面山無線中継所

大分県八面山中継所

八面山小池

笹尾池

297.9

331.3

352.1

366.0

317.7

178.2

284.9

140.7

211.5

196.4

124.9

121.1

300.4

215.3

226.3

226.3

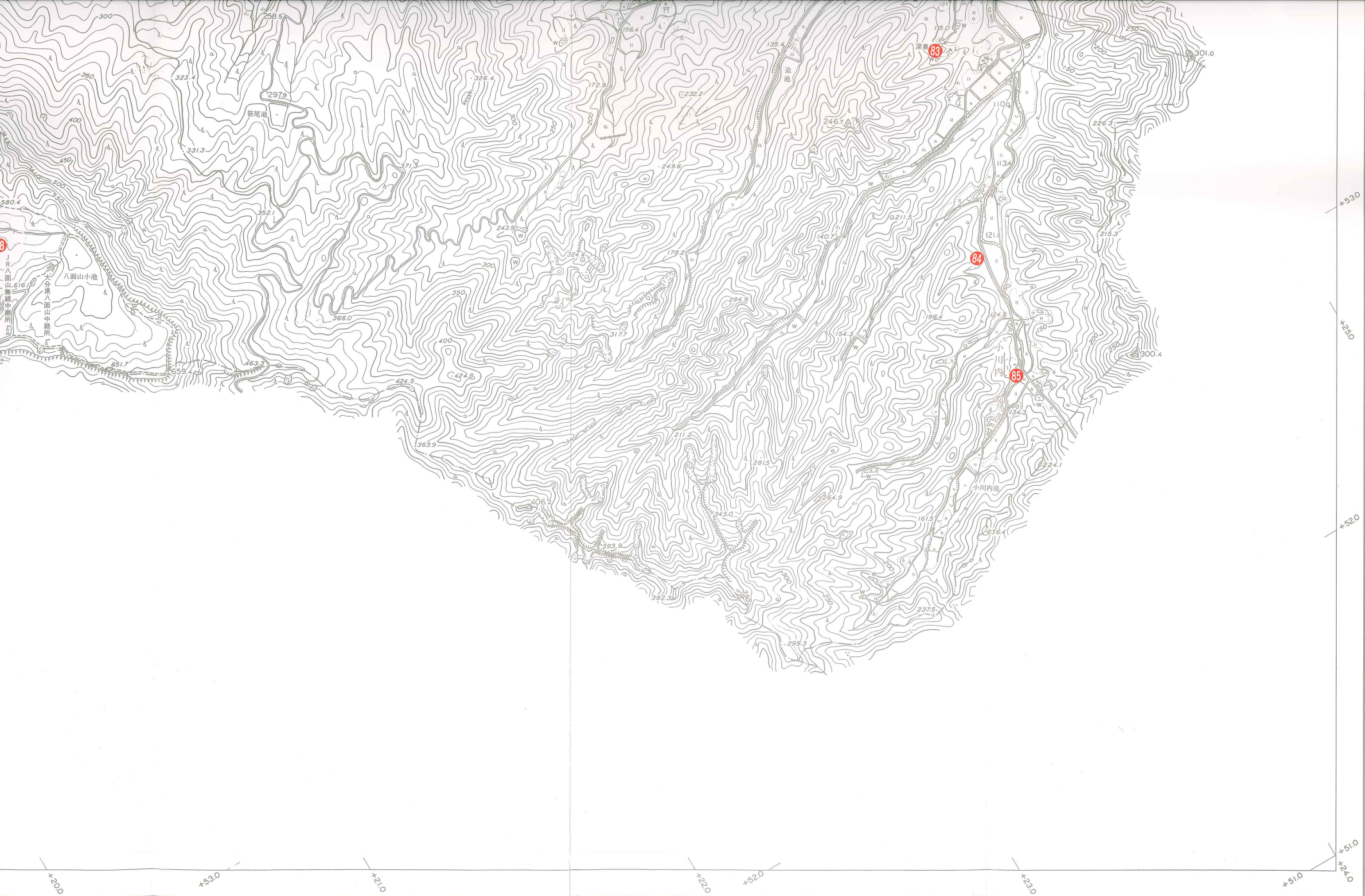
+53.0

+54.0

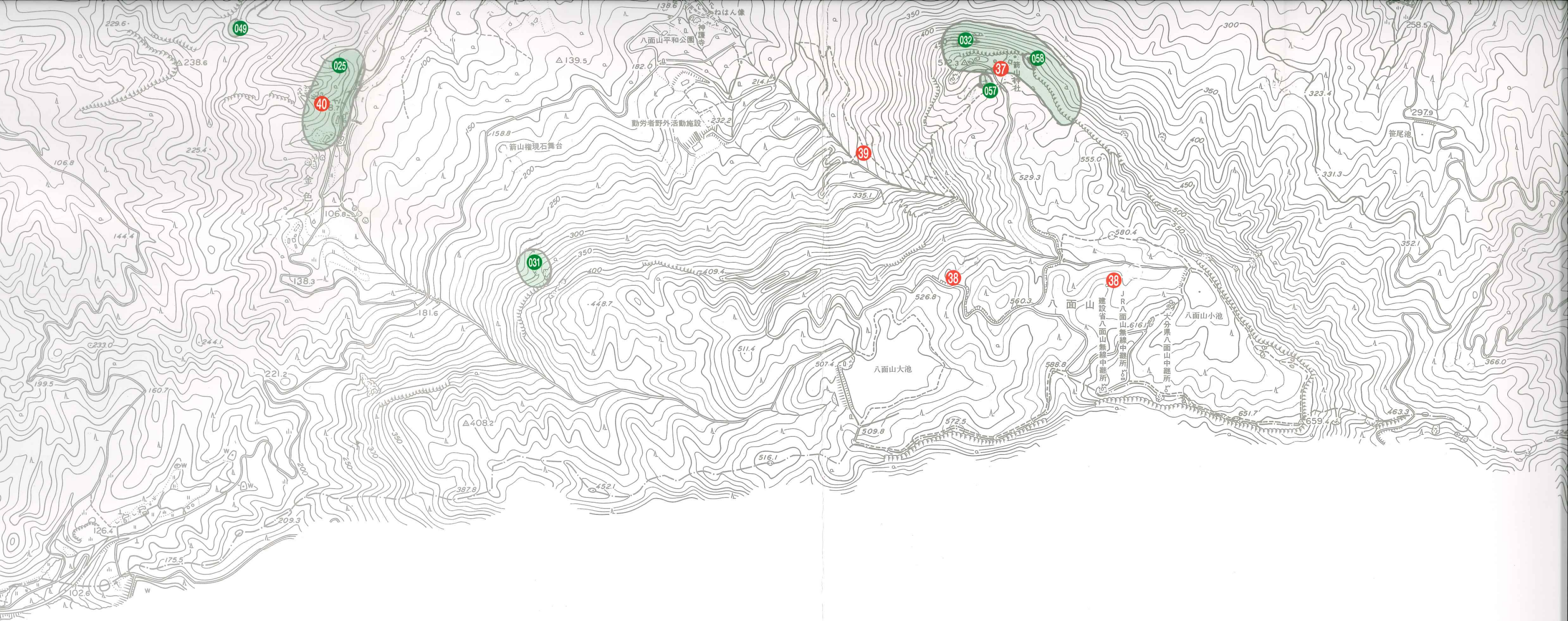
+25.0

+26.0

+55.0

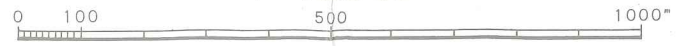


三
光
村
役
場



本 耶 馬 溪 町

1 : 12,000



三光村の遺跡

2001年3月

発行／三光村教育委員会
(下毛郡三光村大字原口)

印刷／昭和堂印刷
